11月號

婦人運動

第6卷 第10號

職業婦人社發行

大正十三年十一月二十二日第三種郵便物認可 （每月一回一日發行） 昭和三年十月三十日印刷納本 同三年十一月一日發行 第六卷 第十號

解放群書

○各冊定價壹圓近代於錢
○県印は宣傳半額版あり

◆新居格 傑作集
◆青野季吉 隨筆論文集
◆山田清三郎 傑作集新聞
屋睺露
◇山崎今朝彌 駄文集地震
憲兵火事巡査
◆幸徳秋水 名文集
◆幸徳秋水 書簡集
◆消費組合の理論と實際
◇石川三四郎 世界社會運
動史警及版
◇岡陽之助 日本社會運動史
◇佐倉啄二 日本女工虐待史
◆近藤榮藏 露國革命運動史
◆小川未明 最近傑作集
◆中西伊之助 長編傑作武
左衛門一揆
◇守田有秋 古今東西理
想郷物語集
◇山内房吉 各種古今東
西社會思想解說
◆尾瀬敬止 革露革命藝
術大系
◆神近市子 女史傑作選集
◆總編プロレ大家最近傑作
集上下二冊
◆總編社會主義的隨筆論文
集上下千頁
◇赤松克麿 英國婦人勞
働運動史
◇守田有秋 世界革命家列傳

解放社（五十錢）四年版

大衆年鑑日記

◆年鑑日記解放社●萬人必携 贈答用●注文殺倒將絕品● 勞農給商大衆急

◆便利重寶御經濟●美裝堅牢 第三種●辭典 懷中活動的● 日記年鑑顧問官

特色

◇年鑑日記解放社
◇萬人必携贈答用
◇便利重寶御經濟
◇美裝堅牢第三種
◇辭典懷中活動的
◇机上便覽常識的
◇官吏町人お百姓
◇學生腰辨失業者
◇注文殺倒將絕品
◇勞農工商大至急
◇日記年鑑顧問官

內容一部

1 年鑑の部

◇昭和四年陰陽暦
◇一九二九東西暦
◇郵便小包電報料
◇各國メートル表
◇印紙營業所得税
◇各種相續税率表
◇天皇御歷代表
◇年令年利早見表
◇世界解放運動大觀
◇日本解放運動鳥瞰
◇無產團體現勢大觀
◇政治經濟婦人各種統計
◇勞農組合各種統計
◇圖表統計約半百
◇團体名簿約二千

2 日記の部

◇日記年鑑歷史二十頁
◇新案大衆日記滿壹年

3 附錄の部

◇解放法律十戒則
◇現行解放法律年別表
◇日常必要法令約百頁
◇黑旗赤旗に國際史
◇メーデー及メーデー歌
◇我等何から讀む可きか

『解放群書』『宣傳用書』及月刊『解放』發行所 解放社 東京市芝區新櫻田町十九 振替東京三六九四四番

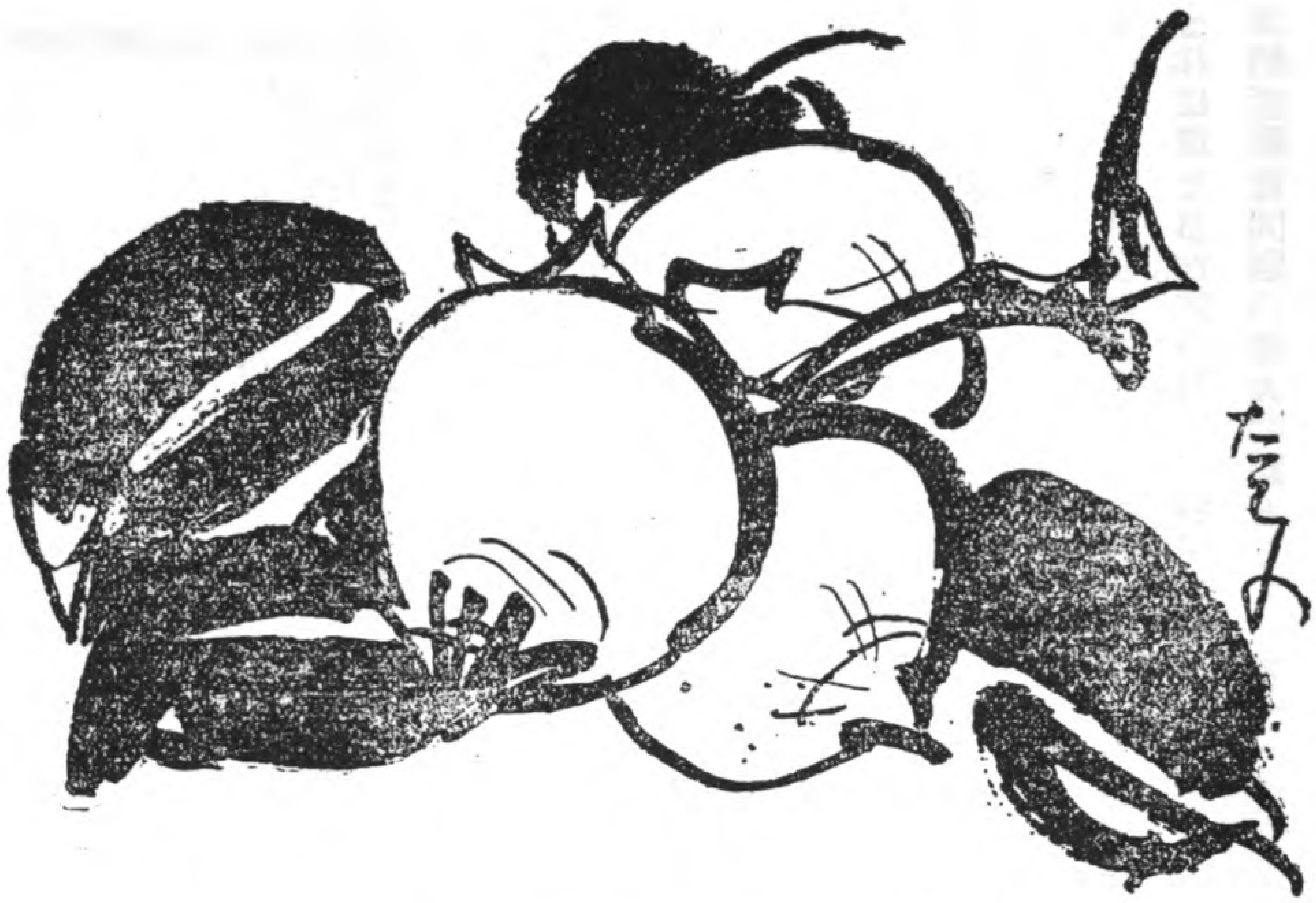


婦人運動 十一月號

第六卷第十號

目次





婦人運動

十一月號

「女の人はどうも本をよまないのでね、」

「家事の雜用が忙しすぎるから、中々本をよむどころではないでせう。」

「いや、本をよまないから忙しいのですよ、」

「それは何故でせう。」

「それあ、日本の家庭は、忙しいには隨分と忙しいんですけれど、然し、本を讀まうとしてかゝれば仕事は未だ〳〵簡略に整理することが出來ます。一日ぢうだら〳〵だら〳〵と日本の女が家庭の雜用におはれてゐるから、いつまで經つても女の生活の——社會生活の進歩向上が出來ないのです。

女も、手や足でする雜勞働で家族のためにつくす心掛けから、もつと精神的につくしてゆく心掛けにならないと駄目ですねえ。」

新マルサス主義と産兒制限

奥むめお



凡て新しい主張といふものはいつも、保守的な或ひは反動的な人々に依つて極端に誤解され、その誤解に根ざした處の皮相的な索強附會の議論を以て、甚だしく批難されるものである。

新マルサス主義の主張も、なほ甚しい曲解と謬想の下におかれてゐるやうに思ふ。放縱な性生活を肯定しての避姙奬勵の運動でゞもあるかの樣に考へて今日でも、往々として卑猥な談笑の題目にさへなつてゐるやうである。

然し、もし世人がこれを肯定するにしても否定するにしても、今少し誠意のある考察をこの主張のために拂ふならば、それは單なる性慾の領域に關する問題ではなくて、もつと根本的な社會問題、婦人問題として、重要な使命をもつた題目であることを發見するであらう。

扨、新マルサス主義の意義を明かにするためには、勢ひその前身であるマルサス主義とは何か、を知らねばならないのであるが、マルサス主義とはその名の示すやうにイギリスの經濟學者トーマス・ロバート・マルサスに依つて組織化された主張である。即ち、マルサスの人口論としてすでに有名な彼の主張は、人口は一、二、四、八、一六といふ割合に幾何學的に増加するが、これに對してその食料の増加は算術的に一、二、三、四、五の割合でしか進まぬ。從つて、もし今日のやうに人間の繁殖がつゞけられてゆくと、人口は二十五年目毎に二倍加になる。而も、最も好都合に行つたとしても等差級にしか増加しない生活資料では、吾々が適當に子供を生むことを差控えないと、人類は常に人口と食糧問題調節のために戰爭や、飢饉や、疾病やの恐しい禍害にばかり遭遇しなけれ

ばならない。

この急激な人口の増加に對して、マルサスは二つの抑制方法を示した。なるべく兒を産む數を少くする方法を豫防的抑制といひ、死ぬ者の數を多くする方法を積極的抑制と呼んだのである。積極的抑制の中には、戰爭、饑饉、傳染病、洪水殺兒、流産等があり、消極的抑制の中には、禁慾、獨身、晩婚、結婚後の節制等の習慣がある。そしてマルサスは、晩婚と「道德的節制」とを主張して、三十八歲にならなければ人間は結婚してはならぬとなした。然し、人間本來の慾望を無視したこの主張が、實際の人間の生活に實行出來やう筈がないのであつた。一八七七年イギリスに組織せられた新マルサス主義同盟は、マルサスに依つて論定せられた人口の中心的大原則を基礎としたものであつたが、人間の天性を一層よく理解した立場から、早婚と、思慮のある科學的な避姙方法を採用する主張を以てした。この同盟は、後、ヨーロッパ諸國及びアメリカ合衆國まで國際的な加盟者を有するに至つた。この團體の綱領は次のやうであつた。

一、人口は（意識的に、且つ有効に制限せられない限り）生活資料以上に増加する不斷の傾向を有す。

二、この傾向を妨げる抑制は、積極的の抑制と任意的抑制とがある。

三、積極的抑制とは、疾病に依つて幼兒及び成人が夭死すること、餓死、戰爭、殺兒等をすること。

四、任意的抑制とは、結婚を避けたり、のばしたり、結婚後も避姙して子供を生むことを制限することであるが。

五、結婚をのばすことは多くの不幸を生む上に、性的罪惡と惡い病氣の有力な原因となる。これに反して早婚は、性的純潔と、家庭の悅樂と、社會の幸福と個人の健康を確保する。然し、男女が、その子供に適當な衣食住と教育とを與へ得る能力以上に澤山の子供を生むことは社會的に大罪惡である。

六、人口が過剩であることは、貧窮、無智、罪惡、疾病の有力な原因である。

七、遺傳的疾病又はその他の原因で生理上、知識上、道德上滿足な子供を生み、育てることが出來ない者は親にならぬことが重要である。

八、人口問題を、その有する必要な方面に於て充分に、かつ公然と議論することは、社會にとつて必要である。

新マルサス主義者の間にもその論旨に多少の相異があるけれど、社會政策としての産兒制限に就いて「現代社會の缺陷を發生させた主因の一つ、否、すべての缺陷を生じさせた根本原因が無制限に子を生んで來たことであつて、これを調節することが、社會政策上最も緊要である。社會の改造や勞働問題の解決やの實をあげるためには、まづ出産を制限しなくてはならない。さうでない限り如何なる政策や組織の變革を以て來てもそれが完成することが出來ないのは勿論、一歩讓つて考へても豫期するほどの効果をあげることは決して出來ないであらう」といふ點に於て一致してゐる。

　無制限に子供を生むことが一般に貧乏の原因になることは云ふまでもない。又、引續いての出産は母體に、精神的にも肉體的にも氣力を消沈させる。現在の賃銀制度は勞働者の必要とするだけの生活費を標準にして給與せられるものではなくて、その生活費の最少限度にも足りないほどの少額しか受取れない。故にこの少ない收入で生活する家庭では、出來るだけ少數の子供をもつことが比較的裕福に、樂しい生活をつゞけられるわけである。

　數年前（統計はちよつと古いが）アメリカ合衆國の兒童局が、八大都市に於ける二萬三千人の母に就いて調査した所の收入と兒童死亡率との比較表をみると、この二つのものは深い關係をもつてゐる事がよく解るのである。

年收入	兒童死亡率
四五〇以下	一六・八%
五四九以下	一三・五%
六四九以下	一一・八%
八四九以下	一〇・八%
一〇四九以下	八・四%
一二四九以下	六・三%
一二五〇以上	六・四%

そして、收入少ない家の兒童は、早晩勞働につくべき運命におかれてをり、幼少から勞働を賣つて親の收入を補はねばならないものであるから、かくて勞働市場に於ては賃銀奴隷がます／＼多過ぎるやうになつて、結局父母の賃銀を脅すことになるのである。出産率が少ないことで有名なパリーでさへ、貧民階級の出産率は中流階級のものゝ三倍以上（一一六に對する三四の割合）だといふ。ベルリンに於ても略々同樣で（一五七に對する四七の割合）、この現象は世界至る處で同じらしく、勞働者とは子供の生産者を意味するとさへ云ひえ

られるのである。

マアガレット・サンガー女史は熱心な產兒制限運動者として非常に有名であるが、女史自身が、マルサスの人口論を基調としてゐるものでないと云つてゐる樣に、直接に人口問題を考慮してるものではなくて、根本目的はつねに、母性の自由にある。即ち、母性の自由を獲得する唯一の、そして最も根本的な手段として、女史は新マルサス主義の產兒調節を選んだのである。

その著「婦人と新種」の冒頭で、次のやうに云つてゐるのをみても、それははつきり解るであらう。

『今日まで行はれて來た婦人の運動、參政權とか、勞働時間の短縮とか、法律上に男女を平等の權利にせよとかいふ運動は婦人の最も根本的な諸要素にふれてゐない。婦人が今日のやうに劣等な地位になつたのは、社會的にも家族的にも、母といふ職能を、婦人がもつてゐるからである。

成程ある婦人は自分で働いて衣食してゐるから、自由であるといへるかもしれぬ。然し、自らが結婚すべきか否か。母たるべきか否か、幾人の子供をもつべきか、等を自分の自由意志で選擇することが出來ない限り、そんな自由は、質的にも量的にも云ふに足りない。婦人は自分の自由――即ち、子を生んで母となるべきか。母となるとしたら幾人の子供を設くべきかを選擇する絕對的の自由を得なければならぬ。たとへ男子の態度がどんなであらうとこの問題ばかりは畢竟婦人のものである。尠く共男子の問題となる前に婦人の問題とならなければならぬ。

婦人は、子供を生む度に死の谷を渡つて來るのである。この死に題する宣告を婦人に强制することの出來るものは男子でも、國家でもない。かういふ苦しみを受けやうか、受けまいか、を決定するのはたゞ〳〵婦人自らの權限である。そして斯ういふ權利を婦人に與へるといふことは、とりも直さず斯ういふ決定を實行するために必要な知識を婦人に與へることでなければならぬ。

受胎を制限することを婦人が、一日でも早く實行すればそれだけ、社會もまた速かに母性を尊敬する樣になる。婦人が速かにこの方法を採用すればするほど、世界は婦人のために又子女の存在のために好適な地となるに違いない。

婦人がかやうに自發的に母たらんとする要求は、受身でも卑屈でも決してない。かうした要求からこそ子供に對するほ

んとうに強烈な愛が生まれて來る。かうした婦人を母として生れた娘たちは、不義や賣淫に身を墮すやうな事もないだらうし、息子たちは、工場や戰場で殺されることを無條件で肯定するやうな事も決してしないに違いない。在來の婦人はたゞ、種族を孵化して來たにすぎないのである。

自由なる母性の新道徳は、第一に無條件に母となることを否定しなければならぬ。自由なる母の權利を獲得して、婦人が機械的に母となることに反抗し、新しい種族の創造者として勇敢に起たなくてはならないのである。

粗製濫造の日本

下村宏

日本は粗製濫造で世界に名聲を博してゐる。どうしたら惡くて高い、品物が出來るかに苦心してゐるやうである。高くて惡くさへあれば、輸出が減つて輸入が殖える。世界大戰で二十億以上の金が入つたが、戰爭がすんでから上調子な生活をつゞけてゐたので、儲けた金子は綺麗に吐き出してしまつた。そして近頃は輸入超過が著しく、木材の如きものですら一ケ年に一億圓近くも外國から入つて來る。更にドイツや支那から、日本人が專問に使用する下駄や醬油樽、日傘までも送つて來る有様である。どうも品物ばかりでは足りないといふわけでもあるまいが、日本人は人間の粗製濫造をもやつてゐる。それも決して人後におちず、遙かに外國に比して優勢であるのは、諸君御承知の通りである。

×

それから凡ゆる經驗上から、優勢運動の必要を認める。不幸にして自分が天刑病その他惡質の體質であつたならば、自身はまづ仕方がないとするも、どうかしてさういふ子を產まぬ樣に努力されたいと思ふ。場合に依つては、さういふものに對する法律を制定するやうなことも、亦やむをえぬことでないかと思ふ。これは性慾問題とも關係を有することであるが、元來性慾と子を產むことゝは全く別の問題である。

今日では各地方に癩病患者を、隔離するところが出來てゐるが、彼の高松に近い瀨戶內海の小豆島では、その收容所を脫出し、その島から泳いで逃げるものが澤山にあるといふ。全く無理ならぬことである。米國あたりでは極めて簡易な手術に依つて、男ならば輸精管、女なら輸卵管をちよつと手術して、完全に避姙の目的を達してゐるとの事である。

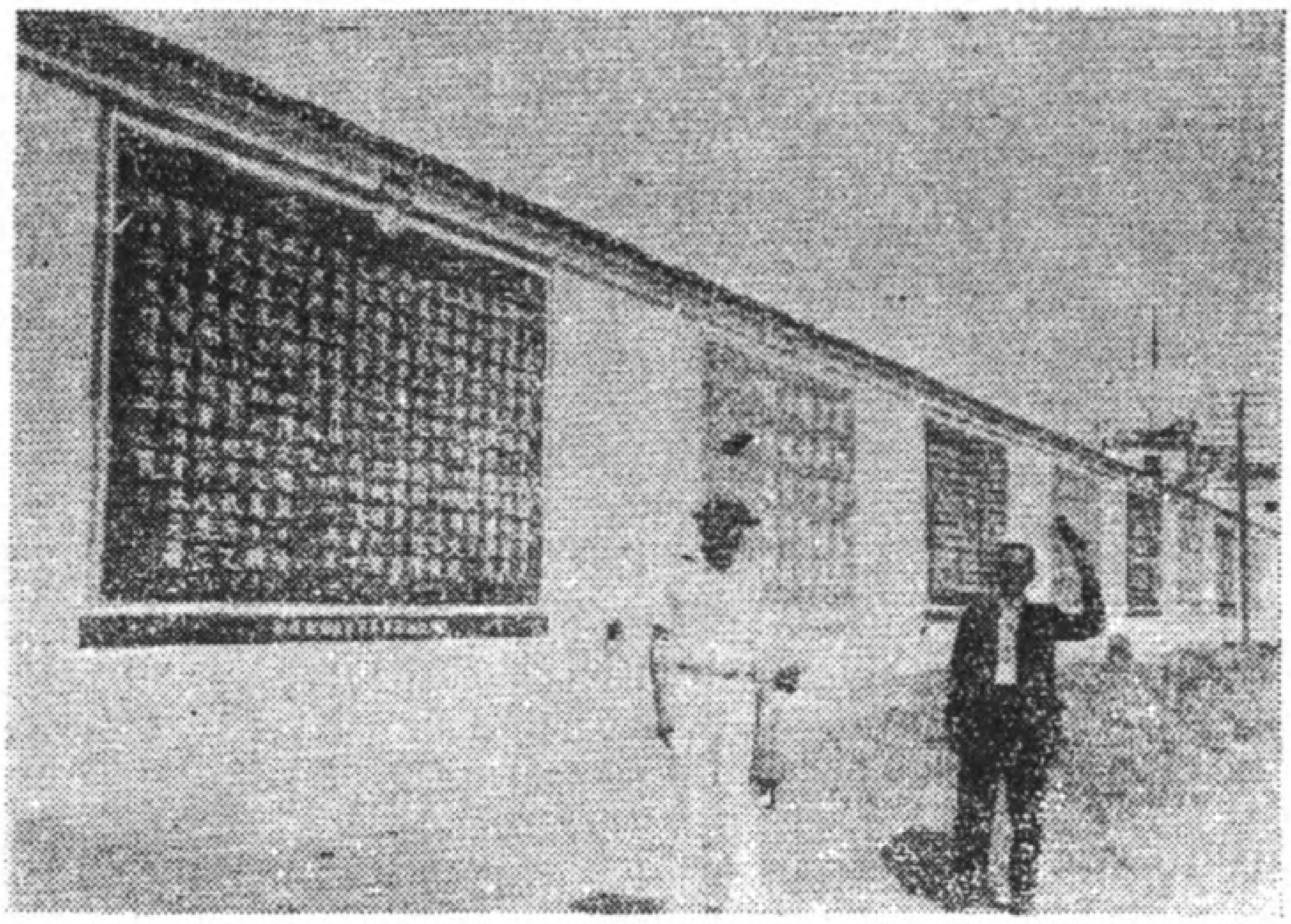
×

大分古い調べであるが、北米合衆國の一九〇二年の調査によると、彼の國の精神病者らの無能力者は在監者中に六十三萬人、監獄外に三百萬人、合せて三百六十三萬人の無能力があつて、そのために米國政府が每年費す金子は、四億に上るといふ。日本に於てもかうしたものゝ數は非常に多く、この精神缺陷が罪を犯し、人に損害を與へ、警察、監獄、裁判所などゝ、それに要する費用に於ても恐らく日本は世界に覇を唱へてるであらうと思ふ。

飛躍する支那

——南支那を巡りて——

大谷徹



南京國民政府の壁にはりつけてある宣傳文です
左は筆者大谷氏

濃い飴色をした波のうねりを氣持よくかき分けて進む私達の船は、何時の間にか楊子江をさかのぼつてゐるのでした。

この飴色の楊子江を傳つて何千里もの奥地西藏や蒙古の山々から沃土を流し何億かの住民にパンを與へ、そしてこの流れをさかのぼつては近代資本主義文明が侵潤して行き、世界帝國主義者の軍艦の後から商船が送られて行つたのです。侵潤した文明は亦今や支那數億人民の自覺を促がし、長き搾取と抑壓とに反抗して民族革命の波を渦巻かしめ世界の帝國主義者共を周章させてゐます。

上海にも南京にも日本の軍艦が碇泊してゐました。上海では、日本人經營の内外棉紡績や豊田紡績の工場に日本の陸戰隊が宿營して何かを護らされてゐます。南京では楊子江内に碇泊してゐるとは云へ、小さい驅逐艦——梨、たけの二隻でした——の事ですから鐵板が八月の大陸に於ける太陽を直射され、とても暑いさうで、毎日その中で苦しい働きを水兵達がやらされてゐるのです。南京には現在日本人が三十人程しか居ないのですが、一體何を保護するために、

誰のために、あんなに澤山の水兵達が罪もないのに苦しめられ、又勿體ない税金の中から澤山軍費を使つてゐるのだらうかと、軍艦や水兵を見るたびに考へさせられました。

上海に着くと全く想ひに反して明るい、近代的な香が多分にします。歐米人によつて造られた都市であるからでもありませうが、可成り新支那の氣分を卒直に現はしてゐます。

先づ私の目に着いたのは若い婦人達です。彼女達が一様に殆どの人々がサツパリと斷髪して元氣よく濶歩する姿に何となく引きつけられ、何とはなし嬉しいといふ感情に滿されました。

日本で見てゐた短かい上衣を着てゐる人は少くて大概長い美しい上衣を被てゐます。銀座邊りで見受ける悪どいモガ振りはなく、アツサリとしたモダンタイプです。彼女達の斷髪は革命が生んだ新現象の一つだそうです。革命は昔のやうに婦人を無爲に、おとなしくはさせて置きませんでした。彼女達にも色々と忙しい仕事を與へ、どし〳〵男子と同じやうに働らかせたのです。そうした忙しい、敏活な活動をするには毎日何時間かを髪を結び、撫でつけることが大變厄介になつたのでせう、それで思切り面倒のないやうに斷髪するやうになり、それが實際上に必要から起つたことなので忽ち一般の風潮となり、今日にては斯くも上海、南京等にてまげを結つてゐる若い婦人は見受けられないやうになつた程です。私の行つた時は夏休み中なので女學生を多く見ることはありませんでしたが、案内役のK氏の話では「とてもその活潑な輕快な容子には全く賴もしくなる位である」そうです。

上海に居留する日本人の奥さん達も大分斷髪を決行して、近き將來には日本婦人のまげが少くも上海からは姿を消すかも知れぬ程の形勢です。

兎に角私は支那婦人の斷髪姿を見てからすつかり彼女達が大好きになりました。

今日革命後の支那では政治上、社會上全く婦人が形式上ではあるが解放され、彼女達は政治上男子と同權であり、同一水準に立たされて、國民政府の役人にもその能力次第で男子同様になれるのです。そして實際に色々な役について堂々と働いて居り、宋女史のフランス公使任命なども、その一例でせう。

南京では九月一日から阿片禁止、賭博嚴禁令と共に廢娼令が布かれました。そしてこれ等の命令は支那全土に及ぼされ

る筈であります。

南京で私達は一夜畫舫に乘つて南京の風流氣分を味ひました、昔からこの畫舫（屋形船の一種）に歌妓を擁して河上に遊ぶことは南京の風流史を飾る獨特のものとなつてゐるのでした。靜かな夏の夜の河を、美麗な舟上に美妓の歌聲やさんざめきを乘せ、之等が幾艘となく上下する樣は確に、なまめかしく又風流なものでなければなりません。然し私達が行つて見ると、不景氣の故でもありませうが、畫舫が澤山お茶を引いて繋がれてゐました。手頃な船を交渉して河に乘出してみると、滑らかな河面に灯びの影をゆらめかして幾つも〳〵もすれ違つて行きます。でも來る船來る船を見ても商賣人の女を乘せてゐるのは僅かに一つか二つ見受けたゞけです。美人が乘つてゐると思つて注意して見るとそれは夫婦連れですその内の半分位は子供も一緒に一家族總動員といふのが主もでした。昔は花柳の巷として、遊蕩兒の遊び道具にされて有名だつた畫舫が、革命後の今日は一家團欒のために利用されてゐるのを見て、廢娼令の――一時的かも知れぬが――影響と、支那人の家庭生活が如何に近代的向上をなしつゝあるかといふことを思つて、驚き且感心せずには居られませんでした。尙この畫舫の遊客を相手に物賣り舟も往來してゐますがたらひに乘つた乞食が惠みを乞ふて來るのには珍らしく思ひました。

支那人にはよく第一夫人、第二夫人といふて妾を持つことが公然認められてゐたやうですが、今日ではそれはあつても公然には一夫一婦制度が確立され、妾を夫人としては認めなくなつたやうです。

◇

上海では租界の周圍卽ち租界外との境界線には嚴重な鐵條網が長く〳〵張りめぐらされてゐます。雨露に錆び付いて赤くなり隨分殺伐な氣がします。所々に塹壕やバリケードもそのまゝになつてゐます。

郊外の工場地帶を巡りましたが、大工場が隨分澤山並んでゐて、流石は支那第一の大工業地だと思はせられます。

さきに、北伐革命軍が上海に迫まつた時、上海總工會の決議で總罷業が斷行され、上海の勞働者五十萬が、この赤煉瓦の監獄のやうな工場から街頭にあふれ出で、遂ひに罷業勞働者の力で上海は完全に革命軍の手に占領されたのでした。

この時のゼネラル・ストライキのトップを切つたのが、日

人経營の内外棉紡績工場でした。當時罷業勃發するや、會社では日頃用意して雇入れてあつた日本人勞働者の手に手に、ピストルを持たせて、この支那革命の先端に立つた光輝ある支那人罷業勞働者を撃たせ、多數の勞働者は倒されました。しかも撃たれた支那人勞働者の中から數名の檢束者を出したので、この同志を奪還するために數千の勞働者達は警察署を包圍し、遂ひに同志を救出すことが出來たさうです。そうした話を聞き乍ら歩いてゐると、當時の武裝勞働者の力强い突撃の足音と、眞赤な燃え上る解放の叫び聲が、耳元にひゞいて來るやうで、煉瓦を敷いた道の上にも動いて行く彼等の黑い影が、今見るが如くに偲ばれました。

深い感慨に打たれ乍ら行くと紡績工場から歸へり來る女工さんの一團に遇ひました。手には何れも辨當入れの手さげ籠を持ち、質素な然し小サツパリした綿服を着て、活潑に何事か話合ひながら通り過ぎて行くのでした。

あの柔和な顔をした女工さんも、一旦ストライキとなると驚くべき堅い結束振りを示し、男工以上に腰强よく勇敢に鬪ふのだと聞きました。

この附近郊外一帶には一杯に、革命的な激げしい口調の傳單（宣傳ポスター）が貼りめぐらされてゐます。その二三を記してみます。

打倒欺騙工人的工總會工統會、擁護總工會

繼續三次暴動精神準備第四大暴動

反對停止民衆運動！

學生武裝起來！

民衆武裝起來!!

これらは何れも殆ど中國共産黨の傳單らしいのです。排日のも相當あります。

不坐日本船、不買日貨

不用日本沙票

打倒日本帝國主義

收廻日本租界

與日本妥協的是賣國賊

××日對府政促、爲濟南慘死同胞復仇

中國民衆一致起來抗日！

×田中

今度の排日即ち對日經濟絶交は、とても深刻な民衆運動として實行されてゐます。學生や、官吏、商會、工會、軍人等

によつて反日會が支那全國に組織され、各學校の學生達が主として交替で、嚴重に日本商品の輸入を取締つてゐるのださうです。それで楊子江を上下してゐた日清汽船など、殆ど荷物がなくて休航つゞきで弱り、又南京では日本人商店は一店を除き、全部店を閉ざして休んでゐます。開店してゐるのは藥屋さんでしたが、少しも賣れないので暮して行くのに困ると話してゐました。彼等は異口同音に田中外交の露骨な支那干渉や出兵を極度に恨んでゐました。

それに今度はこの排日で日本から南洋への貿易も全部杜絶したので大阪商人などは極度に困つてゐるやうです。南洋に於ける大きな商人は全部と云つていゝ位、支那人で、彼等は今度の革命の、軍資金の大部分を出してゐる位ですから、本國の排日に卒先して一致の行動を取つたことは、當然なことゝ言はねばならないでせう。

そこで大阪の實業家達が餘りに困りすぎた結果、全く血迷つたのでせう、「排日運動の起るのは、日本がおとなしく過ぎるからだ、もつと懲しめやうが足らぬからだ。だからうんと出兵して膺懲せよ！」と決議して、田中反動內閣の出兵政策を援けたことは、餘りに頭が古すぎて、自分で自分の首を締めたやうなものです。全く時勢を知らぬ馬鹿者揃ひの、實業家團だと云ふべきであります。

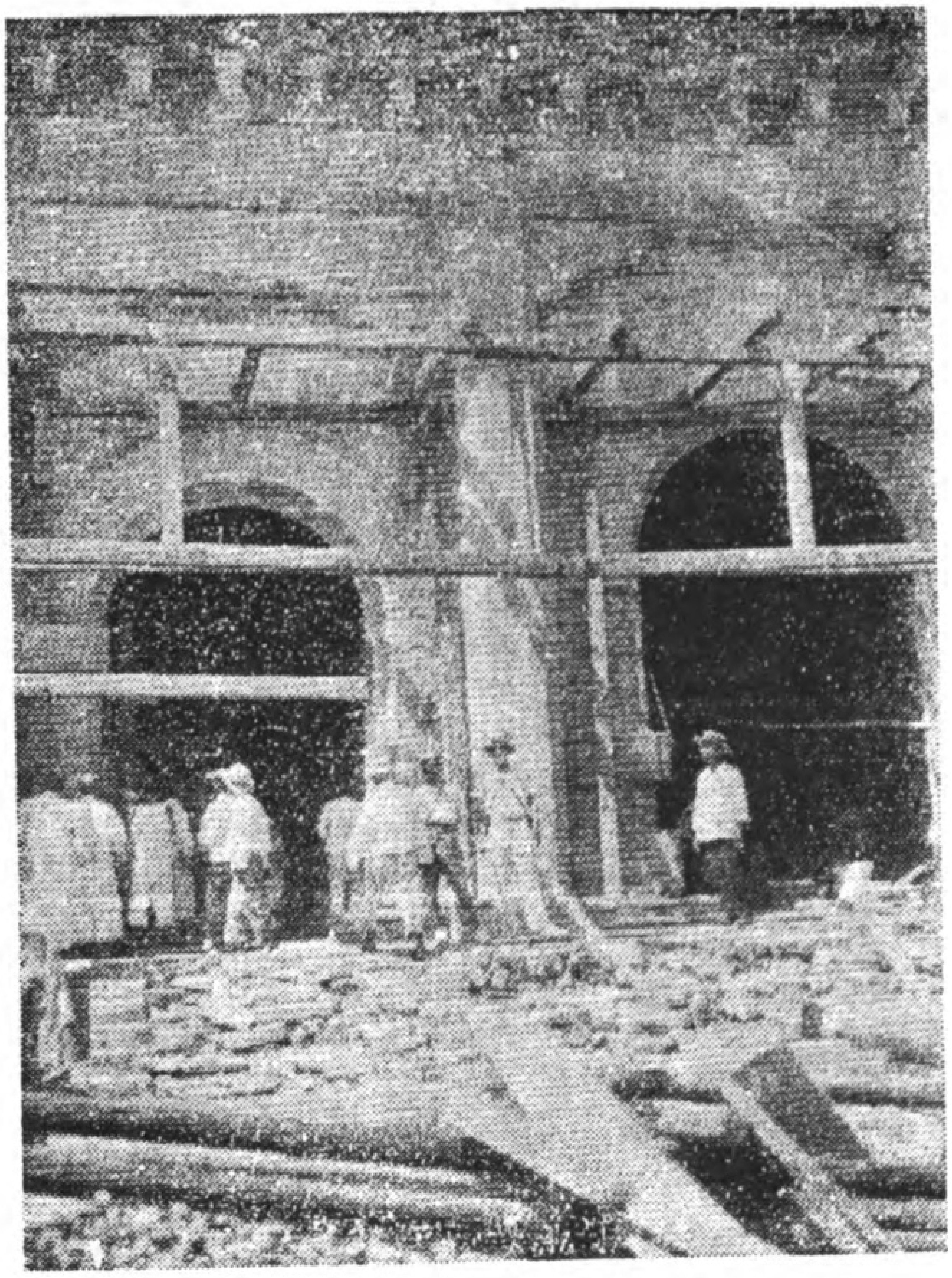
◇

上海から南京へ行く途中、私達は蘇州へ寄りました。蘇州は杭州と共に、支那第一の景勝地と云はれ、四季內外人の來遊客が跡をたゝない所です。隨つて昔からの色々な古蹟も仲々多い様です。

私達は驢馬で一日、アチコチと廻りました。蘇州城內から三四里離れた、天平山にも登りました。その途中、田舍道を幾つかの村々をすぎましたが、我々の驢馬につけた鈴の音がリン／＼と慌しげに響くのを聞いて、家の中から、或は樹影の下で、農婦達が內職の手を休め、柔順で羊のやうな顔を上げて、私共を見送つてゐるのでした。彼女達は布や絹地に美しい刺繍を入れ、或は細い竹で、小さな色々な竹細工物を編んで居ります。刺繍などはもとは日本から、輸入してゐたのを、最近は彼女達の手で立派に、しかも非常に安い賃銀で作るやうになつたので、輸入は止んだのださうです。こんな農家の婦人達で、こんなに奇麗な刺繍が出來るのを見て、支那人の手先の器用なのに驚きました。

天平山近く、山道になりかゝつた手前の村で、ぞろ〳〵澤山の婦人達が、裸足で隨いて來ながら何かしきりに話しかけて來ました。始めは物貰ひかと思ひましたが、よく聞きますと籠に乘れと云つて勸めてゐるのでした。

籠といつても山籠で、二人の婦人の肩に載せられた籠の上に腰かけてゆくのです。



工事中の孫文の墓です

私達が斷つても仲々思切らず隨分長い間、五月蠅くすゝめてゐましたが、どうしても乘らぬので彼女等も根負けして歸へつて行きました。

南京の町に入ると、田舍臭い路の狹い古色を帶びた町ではありますが、土塀と云はず、壁と云はず、空いてゐる所へは到る所、靑ペンキの上に白字で、革命のスローガンや、國民黨の宣傳が大書され、又到る所、革命軍第何集團司令部、或は宿舍の看板と、その前には銃劍つけた衞兵が立ち、町中靑天白日旗や滿地紅旗が、ひら〳〵飜つてゐるので、活氣が漲り、新しい、忙しい氣分が溢れてゐます。

打倒軍閥、打倒帝國主義、打倒中國共產黨、促開國民會議、收回關稅、廢除不平等條約、實行三民主義、一切權力屬於中國國民黨

こうした代表的スローガンの外に、打倒土豪劣紳民衆要革命化、農工商學兵大聯合等々、或は細々と三民主義や國民政府の政策の說明が根氣よく書かれて居り、或支那人が『國民政府は口と筆との宣傳で國民の支持を得てゐる』と云つたことが、成程とう

なづかれるのでした。

日本兵十何人が殺され、支那良民二千何百人かゞ虐殺された濟南事件に於ける、濟南慘死者の累々と横はつてゐるやうな、慘悲極まる寫眞が幾つも印刷された、呪ひの排日ポスターも大分見受けました。

電柱の上方に掲げられてゐる煙草の廣告にも「打倒經濟侵略主義」の標語があり、革命支那でなければ、味へない氣分が現はれてゐます。

巷を慌だしく馳せ交ふ、自動車や馬車に、ピストルを腰に當てた憲兵をその兩側に乘せて走りすぎてゆく、國民政府の要人や將軍達の往來でせう。今南京の市內には各地から獵官運動者や新しく移つて來た役人達が溢れ、どの旅館も滿員であり、住宅難に陷つてゐると聞きます。

南京郊外の紫金山に登り、それから麓の、明の太宗の孝陵に隣りして、建造中の孫文の墓に詣でました。孝陵も仲々大規模なものでありますが、それ以上に孫文廟は大仕掛けのものです。既に二年の日數を要して未だ完成せず、後一年位かゝるそうです。二百萬圓以上の經費、全部石造で實に壯麗なものです。又實に眺望の展けた景勝の高地でもあります。

革命支那には幾多の建設すべき事業、道路、水道、鐵道等重要にして緊急を要するものを控え乍ら、しかも資金難をかこつ折柄、何故斯かる贅澤な、民衆に關係のないものを大金掛けて造るのか？　と問へば、「我々もさう思ひ、既に馮玉祥も反對したのだが、何分孫文は存命中、多く海外に居り、海外の支那商人と關係深く、彼等の中に多い共鳴者から、墓を造れとの條件附きで寄附を受けたために止める譯に行かないのだ」と、國民政府の或要人は答へました。

美しい傳說を持つた雨花臺に行くと、奇麗な色彩や模樣をもつ、瑪瑙を水に入れて賣つて居ります。その背後にある第一泉と云ふ清水の湧く池を有する、茶舘に休んでゐると、消費組合宣傳のポスターが澤山目につきました。その二三を參考に掲げてみます。

加入消費合作社可以免除商人的壟斷

（商人の壟斷より免れんとするには消費組合に加入せよ！）

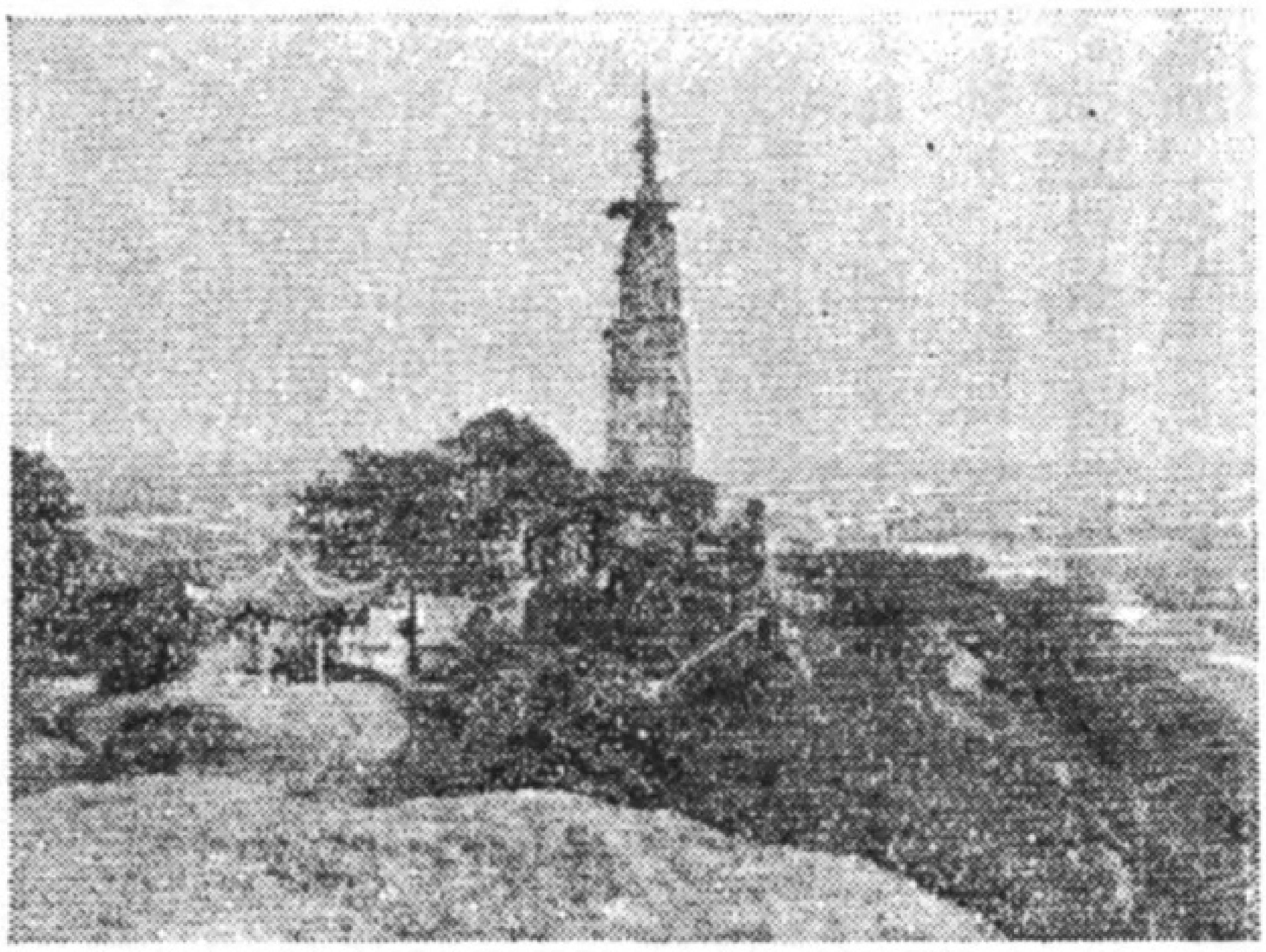
要買價廉物美的東西快快組織消費合作社

（良い品物を安く買ふには、直ちに消費組合を組織せよ！）

要想減少荒年的痛苦快快組織利用合作社
（不作の年の痛苦を減らそうと想ふには、至急消費組合を作り利用せよ！）

要實現民生主義便應起快加入合作社
（民生主義（三民主義の一つ）―を實現するには卽ち直ちに消費組合に加入せよ）

この宣傳ビラの署名は江蘇省政府農鑛廳合作指導員養成所となつてゐました。このポスターはその後、到るところで見受けました。



杭州西湖畔の古塔です

國民政府は土地問題解決卽ち、農村革命の一手段として、農村消費組合組織に努力してゐると聞きました。中央政權が確立しないで動揺し勝な國民政府も、建設的事業には相當熱心に努力してゐます。右の消費組合もそうですが、南京等では特に道路擴張に懸命になり、凡ゆる情實習慣を打破し、東京のやうに魚河岸の板舟權補償問題の如きものも起さず、どし〳〵敢行してゐます。

◇

浙江省の杭州では、西湖の景色のよいのに全く夢の國へ行つたやうな心持で、舟を泛べ、島を巡り、周圍の山々に古蹟を探ねて過ごしました。

一日の疲れでいゝ氣持になつて寢に就いてゐると、それは二日目の夜でしたが、十二時頃でせう、俄かに宿の横の街路が、群衆の逃げ惑ふ足音と、やかましい叫聲とに騒しくなりそれに目を醒ますと、宿屋がドシン！とふるへる程の大爆音が續け樣に起つて來ました。驚いて窓外を見ると、眼の前が眞赤ではありませんか、筋向ふの一つの建物が大きな溶鑛爐のやうに炎々と焰を上げ、仕掛花火の飛ぶ如く續けざまの爆發です。これはとても大變だと氣附いて、狼狽して荷物を纏め、漸く階下の表門の處に逃げました。

壁の隅には年頃のお孃さんが、母親に顏を埋めて、ふるへてゐます。凡べての旅客が不安そうに騒がしく固まつてゐま

す。

段々様子を聞くと、宿近くの憲兵司令部の彈藥庫が爆發してゐるのです。街路には時々黒い彈丸の破片がバラ〳〵降つて來る、銃劍を光らせて、歩哨がブラ〳〵しゐる、通行は全く杜絶えてゐます。

三、四時間後には漸く爆音も稀れになり、小さくなつたので、一先づ室に歸へつてベツトに入りました。

不安の旅の一夜を明かした翌朝、現場を見にゆきました。この爆發の原因は不明とのことです。でもその後間もなく、杭州市長?（前國民黨中央執行委員沈定一）が附近で、暗殺され、戒嚴令が杭州に布かれたことを聞きました。右の事件は何れも共産黨の擡頭を示すものだとの噂であります。

現在支那各地では毎日のやうに、中國共産黨の人々が、官憲に捕へられ、そして容赦なく銃殺されてゐることが毎日の新聞紙上に出て居りました。支那に於ける、種々なる事情は一時彈壓された勞働者農民の力を、最近急激に、盛り返へらしめつゝあり、それが各地總工會或は中國共産黨の、公然たる活動となつて現はれて來てゐるやうであります。

今度始めて、支那を旅行して、支那人は誠に親切で、以前に考へてゐた悪い先入的支那觀をスツカリ失ひ、親しむべき隣人との感を深くしました。

革命は、資本家革命で止まつてゐるが、一度眼覺めた民衆の力は、眠より起き上つた獅子の如き勢ひで、必然に革命を徹底せしめてゆくでせう。『革命未成功、同志仍順努力』との中山先生の言葉を、そのまゝ私も革命運動の今後を期待して歸へりました。

妻（氣狂ひの樣に）「貴君々々、坊やがインクを飲んだんですよ、ヘヤク〳〵」

亭主（外の事に氣をとられ乍ら）「そんな事言つて俺の萬年筆を借りやうたつて、その手は桑名の燒蛤だよ。」

A子「オヤ、雨になりさうですネ」

B子「マア、いやな事、今日こそは花壇に水をやらうと思つてたのに」

支那のモダンガール振り

黒根祥作

一　教育平等の叫び

支那では、一九一九――二〇年頃から男女共學の叫び聲があげられ、續いて大學程度の五六の學校で、その實現を見たのであつたが、女生自身の缺陥や軍閥政治の無理解に禍されて、見るべき效果のあげられなかつたのは遺憾なことであつた。ところが、北伐の進行革命の完成につれて、婦人教育界はまたもやもく〳〵と動き出した。婦人教育界といつても、學生を中心とするものであつて、リーダーに教授をいたゞくものではない。こゝが非常に面白いところであつて、支那では先生よりも生徒の方がヨリ精進的であり、ヨリ潑溂味がありそして政治運動、社會運動とピツタリ來るものをもつてゐるのであるから、彼らの有する力と地位といふものは、馬鹿にはならない。その彼ら――彼女たちはいまや甦生し、復活しようとしてゐるのである。南北都市におけるこの種の新事象は、新聞、雜誌に數多く散見され、心ある人々の注意をひいてゐる。その一例として、私は、北平(舊北京)學生の男女教育平等について一言したい。

北平は支那における學問の都である。將來は知らないが過去もさうであつたやうに、現在もさうである。そこには、女子大學はたゞ一つしかないが、私のこゝ

にあげやうとする女生たちの母校がすなはちそれである。公稱を國立北平女子師範大學といつてゐる。そこの學生らは、八月上旬、いはゆる通電といふものを全國に發したが、その中に只今いつた男女教育の平等といふ主張が書いてある。參考のために末尾の一節を譯してみよう。

學校の組織變更にあたつては、男女教育平等の原則により、あらゆる施設は男女學校をして、平等の地位に立たしめられんことを望む、もし組織變更の名に籍つて、併呑の實を行ひ、または陽に整頓と見せ陰に蹂躙するが如きことあらんか、吾ら同士は二億の女子の教育のために奮鬪し、斷じて不平等の待遇を承認しないものである云々

氣宇の大に、鼻息のすさまじきところ敬すべく懼るべし。引込み思案であり、遠慮勝ちであり、特に役人などの前には

からきし元氣のない我が女學生たちにとつて、よい他山の石であらう。

二　斷髮天足

今年の八月一日北平市長何其鞏氏（この人も馮玉祥氏の部下）が「靑天白日旗下の婦人は陋習を打破し、すべて新時代の精神にいくべし、その第一歩として三週間以内に、三十歲以下の女子はすべて斷髮すべく、もし斷髮せざる時は、反革命墮落税を賦課すべし、なほ男子の辮髮および女子の(滿洲髷ならびに)纒足はこれを(嚴)禁ず」といふ布告を出したといふので、海一重の我が國では、大變なセンセーションを卷きおこした。けれども支那の方ではこれくらゐのことでは決して驚かない、平氣の平左、お茶の子サイ〳〵である。革命の治下にあつては、これに類しておの布令など毎日のやうに下つてゐる。生命財産を脅かされるものでもなし、しかもモダンは妾が欲するところとあつては、役人の力を藉つて頑固親爺を說得して貰ふと同一效果がある。何んで吃驚するどころのものか。これに聊か迷惑するのは町の土豪劣紳級と田舍ものであらうが、支那人は革命には慣れてゐるし、革命思想は地方の隅々までも行き渡つてゐるから、これとて我らが心配するほどのこともあるまい。況して三十歲以下の妥協案を出してゐるのであるから、割合やりよからう。また我が國の多數人士のやうな留髮論者がゐたら名目はよくないが、いはゆる「反革命墮落税」なるものを納付すればよいのであるから、罰税は何ぼか知らないが、相當餘力あるものにはたやすい御用である。

そこで斷髮だが、北平にはたゞいま女子理髮專科學校などいふ職業學校も生れ髮床には第一男女理髮館をはじめ、いくたの女專門の髮床ができて、モダン娘の仕上げに汗みどろとなつてゐる。支那國粹の本場といはれた北京の都も、その名が北平と改まつた如く、隨分と變れば變つたもので、昔を知るものには奇觀とも壯觀ともいひやうがなからう。こゝでは主として北平について書いたが、南京、上海、廣東、漢口その他の大小都市で、斷髮が昨今大流行を演じつゝあるのは先刻人の知る通りである。

つぎに纒足だが、これについては少しく解釋を要する。抑も纒足とは、裹脚とか裹足とかの別名があるやうに、幼女時代に布をもつて堅く足をつゝんで、該部の自然的發達を妨げるもので、正に天足——自然のまゝの足といふ意義と相反對するものである。しからば纒足された足

の大きさはどれくらゐであるかといふと「三寸の金蓮」といふ言葉が説明する如く、甚だ小さいものであり、かつ畸形である。そして極端に不潔であり、また不便なものである。昔の人は、これでも婦人美のつもりであつたのであらうが、只今となつては餘りにも非現代的である。それで清末頃より盛んにその弊害が絶叫されたのであるが、その擘弱きと官憲の協力なきとによつて、まだ半分ほどの效果も收めてゐないといふ實狀にあつたのである。それが今度の革命完成と來たのであるから、ぜひとも殘り半分を綺麗に解放させてやらなくては、といふことになつたのだ。しかし北平を中心とする北支那一帶は、實に纏足婦人の淵叢なのでそこに眼をつけた何市長があんな布告を出したわけでもあるまいが、この方は前の斷髪のお達しに比すれば、遙に有意義な企てゞあるだけ私などは無條件大賛成である。さて纏足禁止――天足奬勵の現狀がどうであるかといふと北平地方官憲は、その後凡ゆる手段をつくして之が目的達成に努めてゐるが、その如何に眞劍であり、熱誠であるかは最近行はれた戸口調査の重要項目の一つに「纏足」といふ欄があつたのでも判るのである。そして、日一日と布告の徹底が期せられて行つてゐる、また河北、(舊直隷)省の縣のうちには、天足促進會なるものを設け、數條の罰則によつて違反者の改悛を迫る仕組みにしてゐるものなどもある。すでに時局は安定してゐることでもあるし、假すに年月をもつてすれば、必ず蹶潰しに一人殘らず纏足の不合理から放つてやることができるであらう。このごろロンドン、パリ等においては、婦人間に足の小指を斷つて小型の靴を穿く風習が流行するといふ逆轉振りも見られる世の中だのに、復興支那の婦人界が、官吏の强制ではあるといへ、斯き惡趣味の犧牲から新生せんとしつゝあることは、われらに何物かの暗示を與ふるものではあるまいか。

原阿佐緒さんの場合

神近市子

封建制度の下にあつた時、婦人の道德は三從であつた。『幼にしては親に從ひ、嫁して夫に從ひ、老ては子に從ふ』それは要するに、婦人を男子支配の下に屈服せしめて置かうとして婦人を僞瞞せんが爲めに婦人に與へられてゐた美名に過ぎ

なかつた。勇氣ある昔のよき婦人達は、それに堪へそれに身を委ねて來た。

封建思想に代つた人類の思想は、自由思想であつた。長い間、封建制度の重壓の下に苦しみ堪へて來た人民の希望の全部は、自由と平等とをうることであつた政治的經濟的の自由獲得と、個性の全發展を認めて何物にも拘束されまいとするのは、自由思想の先覺者達の意圖であつた。この主張は政治的經濟的に幾多の特種の新しい形態を發生せしめた。そしてこの思想が支配する社會では、自由と平等とは最高の權威を有する合言葉となりそれは同時に德とも美とも見られるやうになつた。よく考へて見れば、最近の日本に起つた著名な戀愛事件は、多くはこの思想の――人間の自由を高調する思想の影響であつた。

◇

『戀愛至上觀は、封建的の傳統への反語としてこそ意義を有したが、封建的なものが大部分無くなつた今日は、この戀愛觀念は更に新しいものと置き換へられねばならなくなつた。』

最近、私はある席上でかうした意味のことを述べた。そして第三者――特に當事者達に子供がある場合にその子供達――の運命と幸福とを配慮しない戀愛は、それ自身が既に個人の生活を不自由なものにしてゐるのであつて、今後置きかへらるべき戀愛觀念はもつとこの點を顧慮した社會性を加味されたものであるべきであるといふ理由をも述べて置いた。

同じ席上で私は又「聞くに堪へがたい」至上觀戀愛の一例として石原氏と原阿佐緒氏とのことを擧げた。石原氏の妻女が精神的にうけた一大打擊の外に、六人の子を抱へて陋屋の中に骨身をけづる勞役に身を委ねて居るのに『戀の勝利者達』が、名譽と富とを擁して華美な生活を送り、ブルジョア新聞や雜誌が、それらをさも當然にして名譽ある正しい生活であるが如くに羨望讃仰してゐる態度に私は少からぬ不審を打つて置いた。そして問題の奧にひそむ誤謬をとり出して、今日の私共の視野の下に明かにして置く必要があることを言つて置いた。

◇

それから殆んど間がなかつた。原氏が石原氏の愛の巢を出でゝ遁走されたといふ社會の記事が出たといふ噂を聞いた。原氏は、自分は八年間石原氏の暴虐を堪へて來たと告白してゐるさうである。八年間の忍從！それは決して短い月日ではない。しかも彼女は長の月日をそれを忍んで來たのである。何が彼女をさうさせたか？こゝに面白い問題が展開して來る

◇

自由の信條からすれば、八年間の忍從は正しく自由に對する冒瀆である。眞に自由を尊重する人であれば、かゝる忍從的な生活に對しては、敢然と立つて反逆するのが當然である。しかるに戀愛の自由を勇敢に奪取した人が、八年の暴壓を忍んだといふのは、奇蹟ではないか。

それには、無論外見とか見榮とかいふこともあつたであらう。全國の評判となつて、さも／＼保田の一角に愛の殿堂を押し立てゝ愛と祝福との源泉のやうに宣傳されて來た生活を、自分の手で放棄することは、堪へがたいことであつたであらう。しかも自分達は常人にあつては爲しがたきことを爲した、戀愛に殉じた自由の使徒であるとする過てる意識が、彼女をその生活につないでゐた一つの大きな動力であつたといふことは容易に想像できると思ふ。

それでは、今日何故彼女が石原氏の愛の褱から自分を解放せずには居られなかつたであらうかと云へば、もと／＼さうした、決して他から考へられてゐたやうな幸福な生活ではなかつたとする。彼女をそこに押へてゐたものは、前に述べたやうな一種の淡い功名心であつたとするしかるにその功名心が動搖しさうな客觀的の事情が加はつて來た。

◇

こゝでは、私は極めて漠然とした表現を許して貰うことゝする。

全社會は、何故か急速に解體のテンポを早めつゝあるかに思はれる。腐敗墮落した社會の現狀に堪へ切れないものゝやうに、一つの新しい情熱の波が、全社會に漲り始めた。全社會は古いものを忘れ出した。戀愛の享樂者達を、彼等の虛榮の殿堂に置き去りにして、若い世代はそれ自らの道を逸走し始めた。

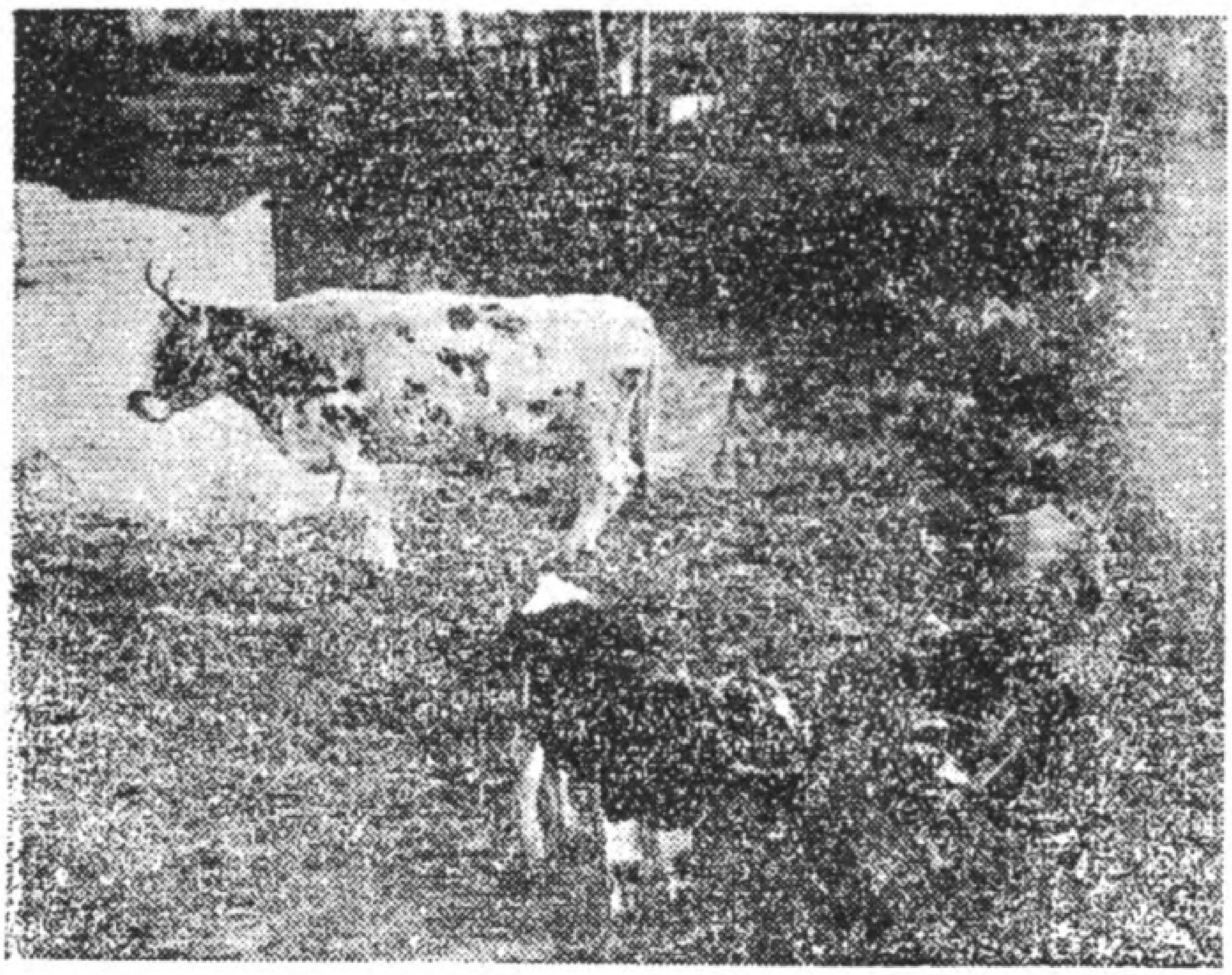
何時迄も人氣の頂點にゐる積りの、戀人達の夢はさめた。信念を失つた彼等の心に、寒々と感じられたのは、實際生活の不滿であつた。小さな存在であると思はれたものが、空しい心の全部を占め始めた。そこに破綻は生れた。

◇

戀愛は自由であるだらうか？ と今日問はるれば、私はイエスと答へるに躊躇しない。しかしそれが第三者と社會との重い負擔によつて始めて結ばれるが如き事情にあるものに對しては、私はさうした個人の幸福と、社會と第三者とが蒙る損失を先づ比較して見たいと思ふ。

戀愛至上觀を廢すれば戀愛は——將來どこにその正當な地位を見出すだらう？ それは婦人の人格を殆ど全部的に認めない封建制度下のそれにかへることはないであらう。がしかしそれは自由思想の精神が與へてゐた適當な位置をとり戾し、人間相互の間のソリダリテーと社會一致の上に、新しくその立場を置くであらうといふことは、改めて私がこゝに云ふ迄もないことであるだらう。

（新愛知より）



ミルクプラントの話

村山文子

牛乳取締規則の改正

十月一日から東京府下の牛乳取締規則が改正されました。それは從來の高温滅菌牛乳はその精分を破壞して、牛乳の效果を著しく、減ずるものですから、今後は凡て警視廳所定の裝置を施した低温滅菌牛乳を供給する事となつたのです。更に特筆すべきことは、今までは多くの牛乳商は牧場、搾乳、精製、販賣等をみんな同一の場所で行つて居たものであり、又小商人はほんの小量づつ買つて來た生乳を壜に詰めて賣つたりして居たものが多かつたのです。もとより設備は不完全、不潔なものが澤山あつて、狹い土地に牛舍を建てゝ牛が歩けばその下半身は泥地にまみれるやうな汚物の堆積したところで、ろく／＼牛の體も洗はずに乳を搾つたりして居たのです。先頃も牛乳の中からダニが出たといふやうな驚くべき話を聞きましたが、その實際を見られた方は「あれでは無理もないと思はれるでせう、それ程ひどい有樣の處が多かつたのです。

又生乳を滅菌するのにも、完全な設備を有たないものがあつてひどいのになると、小買ひして來た生乳をよく洗はない壜に詰めて蒸籠で蒸して平氣な顔でお得意に配達して居たものもあつたといふ事です。濾過裝置が不完全な爲に、髮の毛が出たり、牛皮が出たり、ダニが出たり、とにかく無責任とも不德義とも云ひやうのない位「東京の不良牛乳」の名聲はあまねく天下に鳴りひゞいてしまつたのでも偶然ではなかつたのです。

こゝに至つて監督官廳でも棄てゝはをかれず、かなりの困難を押し切つて、こゝに東京府下の牛乳販賣業者を、一、搾取業者(牧場)、二、販賣業者(プラント)三、請賣業者の三種に區別して、十月二十日までの猶豫期間をおいて次の樣な設備を完全に行はせるやうになつたのです。(只今警視廳に認可申請中のプラントは府下を通じて約五十個所あり、その中二十餘個所は低温滅菌の裝置がなされてあります。)

1 搾取(牧場)
- 牛舍
- 飼料取扱場
- 飼料置場
- 運動場

乳牛洗場
搾乳室
牛乳取扱室
- 受乳室
- 検乳室
- 取扱室
- 滅菌室
  - 受乳タンク
  - クーラー
  - クラレフアイヤー
  - パステライザー
  - クーラー
- 器具洗場
- 壜詰室
- 配乳室

2 販賣（プラトン）

3 請賣

ミルクプラントの内部

ミルクが牧場から運ばれて各家庭へ配達されるまでのあらましをお話しませう。

今度の規則によつて牧場は一切市内に設けられなくなりましたので、牧場で搾取された乳は直ちに攝氏三―四度に低下されて（しぼり立ては牛の體温とほゞ同じ位の三十七八度）トラツクでプラントの受乳室に運ばれます。そのミルクは少量づつを検乳室で、その比重、精分を検査され取扱室に運ばれて、牛によつて脂肪の分量などは異ひますから適當に配分されて滅菌室の受乳タンクに入れられます。それからクラレフアイヤー（清澄器）で目に見えない微細な塊までもすつかり除去されて次のパステライザー（滅菌器）に送られます。こゝでは蒸氣で攝氏六三度の温度で（法定では七〇度までとなつて居ますが六三度が最も適當の温度だと云ふ事です）三〇分間加熱されます。その間この容器の中には二枚の翼があつて絶えず牛乳は攪拌されて居るのです。そして又チユーブでクーラー（冷却器）に送られます。クーラーには絶えず冷凍裝置によつて攝氏三―四度のアムモニア液が送られてありますので、その表面をつたつて集められた牛乳が壜詰場に送られるまでには三―四度に低下されるのです。

一方器具洗場では壜は先づ加熱消毒されて、ブラシで洗はれ水ですゝがれ更に消毒され壜詰場に送られて牛乳を待つて居ます。かうして壜に詰められた牛乳は零下四度位の冷凍室に入れられて安全に保存されるのです。この間に要する時間は凡そ二時間、大低夕方四時頃から九時頃迄に翌日の朝配達の分が出來、午前九時頃には夕方の分が出來上るのださうです。これで大低の装置と順序は分つていたゞけたと思ひますが、出來る事なら一度はかうした内部の装置などを見學されるとよいと思ひます。

低温滅菌牛乳取扱上の注意

1 低温滅菌牛乳といふのは、世間の人が一般に考へて居る程腐敗しやすいものではないのです。完全な装置で細心の注意を拂つた信用ある店のものであれば、眞夏でも朝から夕方までおいて、何ともなかつたといふ實驗があるのですから安心して使用して下さい。

2 低温滅菌牛乳は、なるべくそのまゝ召し上つて下さい。止むを得なければ攝氏七〇度位（一寸手をつけてあついと思ふ位）まで加熱して、決して沸騰させてはいけません。それでは牛乳の效果は少しもないといつていゝ位でお湯を飲むのとちがひはないのです。

3 低温滅菌牛乳は、よく御らんになると、壜の上の方に筋があります。これをクリームラインと云つて、低温滅菌牛乳に特有のものです。このクリームラインは滅菌するときの温度や、ミルクの質によつて多少の増減はありますが、これの無いのは決して低温滅菌牛乳ではないのですから、それを特に御注意下さい。

4 低温滅菌牛乳は配達されたらすぐ御使用なさるか、さもなければ冷たい所において下さい。配達されたときにあたゝかい牛乳があ

りますが、これは必ず古い品ですから、ごまかされないやう御注意が大事です。

5 牛乳に不正な事がありましたらすぐ最寄の交番に屆けて下さい。警視廳の衛生部では直ちに試驗して適當の處置を講じますから、各家庭でも協力して、各自の保健衛生のために、不正はどこまでもずん／＼摘發してゆく事を各自の共同責任だと思つてつとめていたゞきたいのです。

婦人の責任

母乳に惠まれない氣の毒な赤ちやんの命の親であり、虛弱者や病人の營養の王である牛乳について、今まで婦人はあまり注意を拂つて來なかつたやうです「牛乳を飲むと頭に角が生える」と云つた昔はともあれ、牛乳に關する主婦の無智が、どの位不正商人の跳梁跋扈を間接に助成して來たかといふ事を思はねばなりません。

先般の不正牛乳商問題について、家庭の主婦はどれ丈けの關心を持ち、どの婦人團體が不正牛乳商撲滅の運動を起しましたか？ 市會刷新の運動に雄叫びを上げる事もよいでせう。しかし婦人にとつてはこの牛乳問題の方がどんなにかより切實な問題ではないでせうか。

今からでもおそくはないのです。どうか當局の折角の努力を水泡に歸せしめないやうに、子を持つ母、病み人を看る主婦、みんなが心を併せて當局を鞭韃し、東京の牛乳なら安心して飲めるといふやうにする運動を起さうではありませんか。

なほ理想を云へば、市內十五區に一個所づつのミルクプラントを設け、更に一町或は二町に一つづつの出張所を作つて、そこまで各戶から取りに行くやうになれば、新らしい牛乳をより安く得られるやうになるのです。牛乳商の話によりますと、販賣費に三分の一位はかゝつてしまふので、どうしても今のやうなやりかたでは安い牛乳を供給する事は出來ないと云ふのです。殊に五斗や一石を取扱ふ小商人では、勢ひ費用だほれがして高いものにならざるを得ないのださうです。

今日都下の生乳は原價三錢位、近縣のもので二錢－二錢五厘位です。それでその倍額の六錢位に賣るのが先づ正當な價格であらうといふ專門家の御意見です。八王子市などはこの十月からすでに牛乳一合六錢に協定値下げを斷行したと申します。東京市民は恥かしいわけではありませんか。

ところでこゝにも一つ考へるべき事は、從來の小賣業者卽ち請賣業者の處置です。彼等には到底低溫滅菌の裝置をする資力がありません。現在五十餘個所の認可申請が出て居てもそのうち二十數個所が裝置し得たのみで、二十日の期限までにはたしてそのうちのいくつが出來上るか分らないと思はれて居ます。外國などでも牛乳消費量は年々增加してゆくのにプラントの數は減少しつゝあると云ひます。これ等の小賣業者が出資して組合を組織して一つのミルクプラントを設け共同經營をするやうになれば個々人の經費も節減されますし、したがつて廉價に牛乳を供給する事が出來て、お互ひに都合がよくなる譯なのです。もうすでにこの組合組織によつてプラントを經營して居るところも出來ましたから、やがて各所に起つて參りませう。これを機會に牛乳の消費者も組合をつくつて、お互ひにごまかしの無い賣買をしてゆくやうになりたいものでございます。

無心の幼兒や重い病人のかよわい玉の緒を無慘に絕ち切つてしまふやうなおそろしい不正商人の魔の手の憎むべきはもとよりでありますが、それを知らずに放任しておく各家庭の主婦にも亦その責は無いとは申されませんでせう。切に主婦であり母である皆樣の御蹶起を俟つ次第であります。



淨化される帝都

めでたい御大典を機會に帝都の美觀を剝ぐやうな廣告や、ビラや廣告塔等をとり除かせることになつたさうである。

私ども市民は今日まで市民の權利を所有しながら、愛市的なかういふ運動をする事が出來ないでゐた。社會を瀆する俗惡な廣告塔や、ビラが、やつと帝都から影をかくす日が來たかと思ふと、さすがにホツとさせられる。

ついでに、さういふ廣告費用に使はれて來た莫大な經費を、われ／＼が買ふ物價から差引いてくれる樣に運動を起さうでないか。

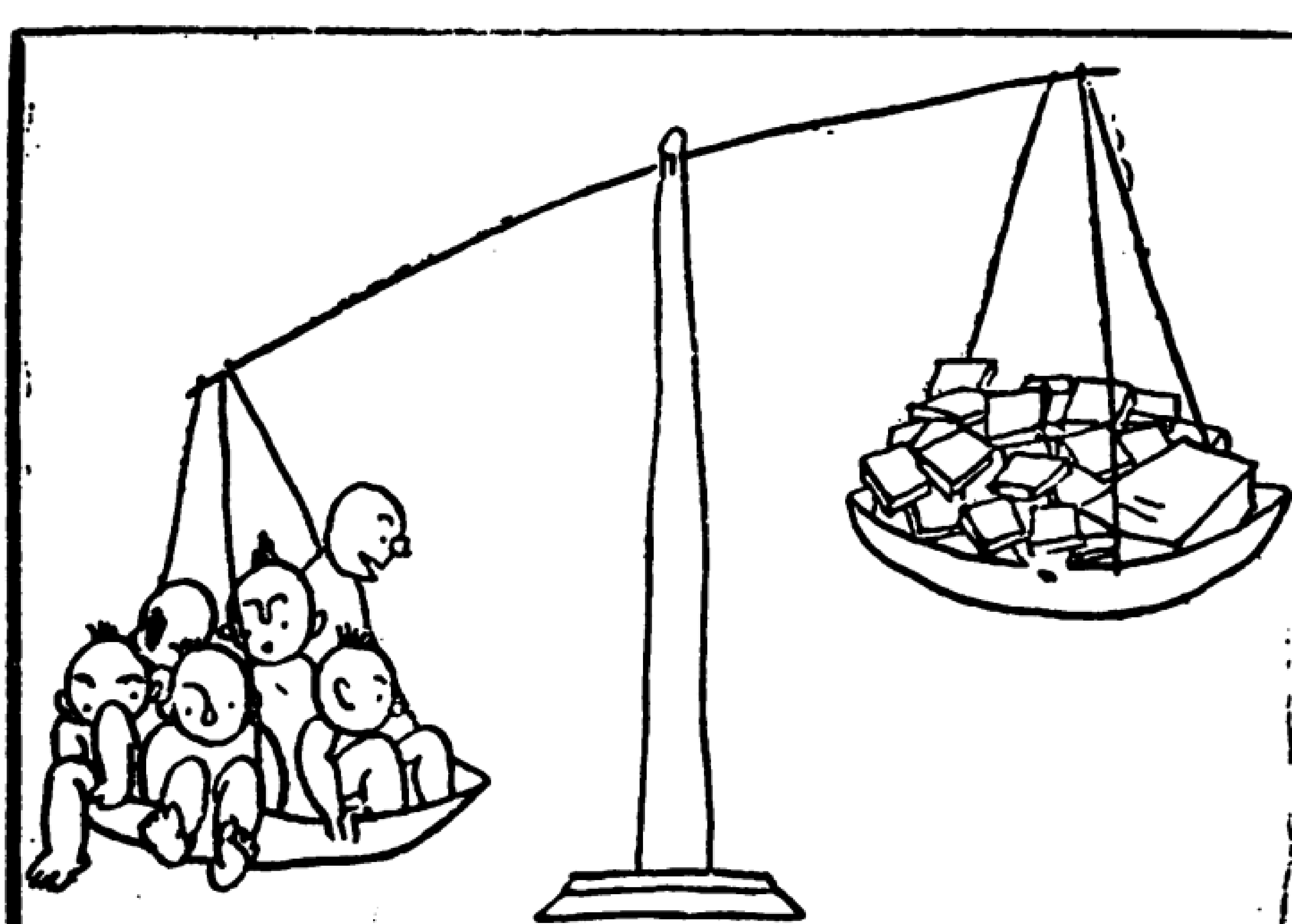
物價にふくまれてゐる多額な廣告費を除いたら、われ／＼はずいぶん分と安くものが買へるやうになる。廣告費まで負擔させられてたまつたものぢやあるまいでないか。

キャラメルの産額

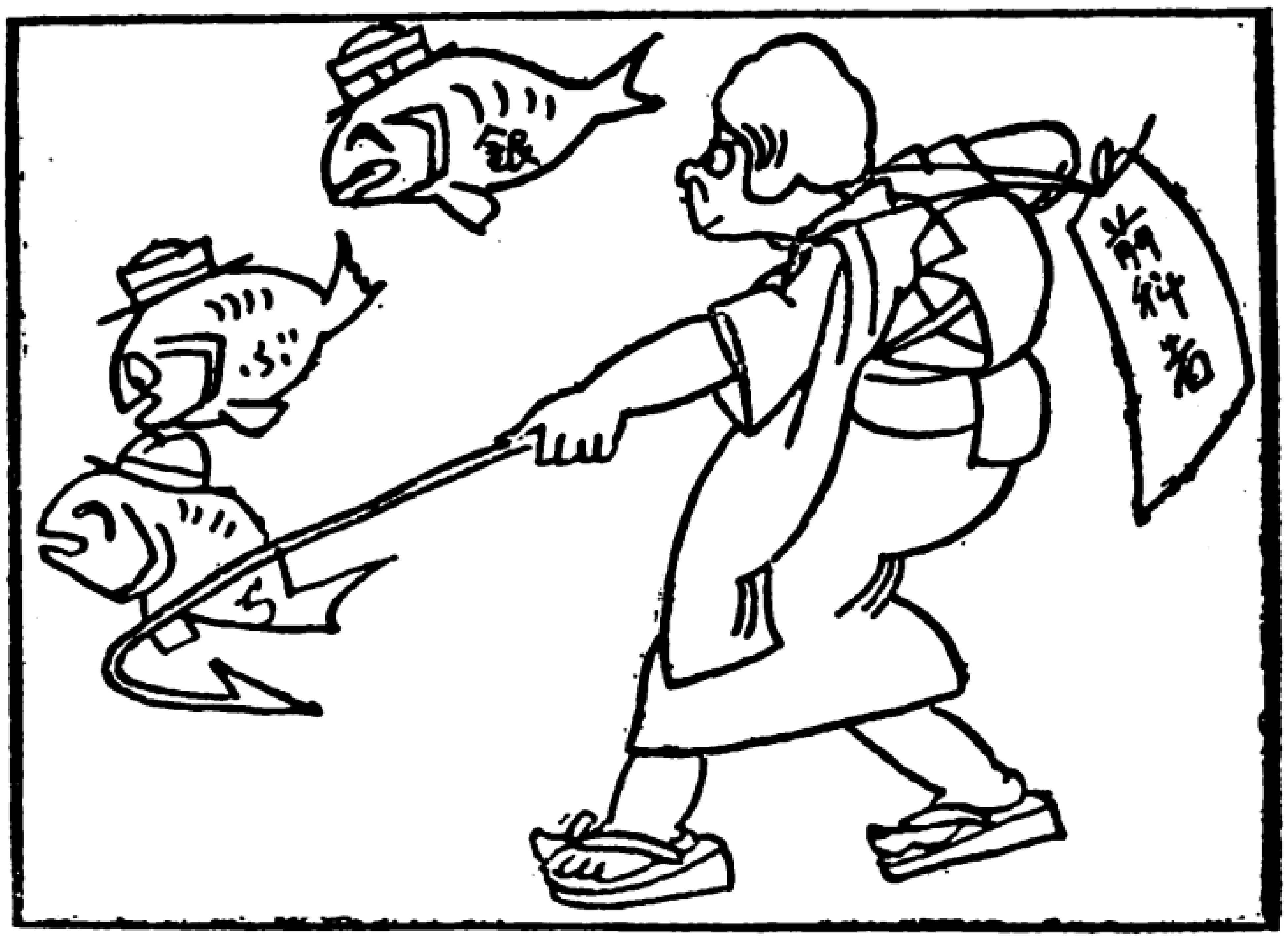
キャラメルが賣り出されたのは、明治の末で以來二十年お菓子の國の王樣だつたが、二三年前から、稍凋落をかんじ、チョコレートやビスケットにお株をとられてゐる さうである。

お菓子の一ケ年の産額は約五億圓、その内一億五千圓が大量生産の干菓子あとの三億五千圓が餅菓子などの 日本菓子であるといふことだ

いくら産兒制限を叫んでゐても、子供は減るどころか、ドン／＼殖る一方だから、お菓子はますます隆盛になるわけだキャラメルが下火になつたと言つても年産額一千萬圓と言はれてゐる。もつとも子供ばかりが食べるンぢやないものね。「キイチヤン、カアチヤンにも一つ頂戴。」



ある嬢の悲願



十月六日の賑やかな宵の銀座で、ひとりの娘が故意に突きあたつたり怪しい秋波を投げつけたりして、銀ブラ連をびつくりさしてゐるのをオマハリサンが捕へて取調べてみると、娘は十三四才の頃から不良少女となり、十七才から三年間刑務所生活をして昨年出獄したといふ經歴の所有、東京の親戚に預けようと連れて來た父を上野驛でまいてしまつて、東京中の男といふ男を、片ッぱしからヒッカケてやろうと、サテこそ銀座へ現はれて、その實踐中だつたのである。

仕合せにも未だひとりも毒刄にあたらない先に御用になつたのは、東京中の男よ、喜べ喜べだ。それにしても、彼の女の悲願も家庭の冷たさから來てるのは悲しい。

男女同權條約

佛國大統領がパリ郊外の別邸で、不戰條約の各國委員を招待して午餐會をやつてる所へ、米國の女權論者ドーリス・スチーヴンス嬢を總大將に、米、獨、佛、伊の女の猛者連が、「妾等は男女同權條約を欲す。」の大旗を押し立てゝ乘り込んで來た。そして、警衞中の警官や憲兵の態度が、横柄だとか、氣に食はないと言つて、ダヽをこねてそこへ坐りこんで動かず、果ては大統領に抗議書を提出するとまでなつたので、官憲は彼女等をパリ市外へ退去を命じたさうである。

その連中には不幸中の幸ひか日本の女性が見えなかつたやうである。が、ご心配なさるな、富山縣滑川町の女性は、昔には米騷動を起し、今日は電氣爭議を釀して全國的に電燈料値下げの成績をあげてゐるぞ（入交總一郎）



日記帖を繰りて

南　青　香

生きることの重荷に惱む弱きわれ人の妻たり人の母たり

佗しさに堪え得ぬ胸を掻き抱き言葉すくなに早寢しにけり

人と人との道や悲しとのたまへど神と人とのみちもあるなり

（吾子の寢顔を見守りつゝ）

百千の苦艱もわれは耐ゆべけれこのあどけなき汝が寢顔よ

地はゆらぎ天裂くるともたらちねの母動かずば安からめ子よ

世を暗くおもふわがくせいとし子に傳ふべからず生命賭くとも

幾峠越えては來にし幾峠越えてゆくらむ險しとうげを

（過去に又現在に、社會的に不利な立場に置かれてゐる我等同性の上を思ひ）

あかつきを待つ人ならでうばたまのこの長き夜をしのび得べきや

庭に來て鳴く小雀を見てあれば食はん苦勞は要らぬとこそ思へ

草の幸福小鳥の幸福のあるものをなどて人のみ信ぜざらんや

（キリストの「野の花を見よ」のみ言葉を思ひて）

家内を掃き清めたるのちにして書讀む心すが〱しかり



冬ちかき日

池田みわ子

（冬ちかき日）

まさびしくいだきあひつゝ言爭ひす錢なき日々のつゞきける頃

宵まつり「ダンテ」をうりて五色の風船買ひて涙おさめぬ

錢にかへてまばらになりし本箱に雛ならべて幾月か經ぬ

時にふとこゝろかげりぬ大方は光のなかに住める身なれど

（荒川に遊びて）

荒川の蘆の根かたの川蟹は秋陽のなかに甲羅乾すかな

川蒸氣通りしあとのよこなみに舟のゆれるをよろこべるかな

女一人おとこ三人のつりふねにざれ言なぐる橋をゆく人

風なびく草むらに立ちはろばろの空をまろしと興じけるかな

なかゆびにすこし足らはぬはぜ釣れぬ午後の陽にきらりとうごきて

經濟界にのさばる巨大な怪物

—カルテルとトラストの話—

吉村　正

一

私共お互が生きて行くには、いろ〱な『物』が必要でありますが、その『物』は極く少數の例外（例へばどこにでもある空氣など）を除いて、大部分は私共の力によつてつくり出されるところのものであります。ところが、この『物』をつくり出すについて、私共の世の中には、凡そ二つのやり方があるのであります。その一は、私共めい〱が、生きて行くために自分及び自分の家で必要とするところのものを、一々自分の家でこしらへる、丁度、田舍のお婆さんたちが、麻糸を紡いで布を織り、布を染めて縫つて自家用の衣服をこしらへるやうに、決して他の人に賣るためではなしに、專ら自分の家で使ふために『物』をつくり出す、所謂、自己生產のやり方であります。その二は、これに反して、私共めい〱が、何か或る『特別な物』をつくり出すことに專門的に從事し、そこにつくり出された物を有無互ひに相通じて以つて、生活のための必要物を充すといふ、所謂、分業生產のやり方であります。そして私共が住んでゐる今日の世の中が、現に行つてゐるやり方は、勿論、前者のやうな自己生產の方法ではなくて、後者すなはち、分業生產のやり方だといふことはみなさんが既にご存じのことでありませう。

しかし、こゝに注意しなければならないことは、今日の世

の中は分業生産で、そこにつくり出された物を有無相通ずるのだと言ひましても、それは決して、物と物とを交換するのでもなければ、また豫め他の人から註文を受けて、その註文に從つて物をつくり出すのでもないといふことであります。勿論、今日の世の中でも、物と物とを交換する場合が全然ないとは申されますまい、また豫め註文を受けて、それに從つて物をつくり出すことも、多少は行はれてゐるでありませうが、しかし、今日の世の中に於て「物」がつくり出される大體のやり口といふものは、只、思惑だけで「物」をつくつてそれを商品として市場に出し、買手を待つて出來るだけ高く賣つてお金を儲けよう、かういふやり方であります。すなはち、今日の世の中に於ける「物」の生産といふものは、使ふがため、使はせるがための生産ではなくて、全く賣つてお金を儲けようがための生産であります。そして、そのためにつくり出されたところの「物」は、つくり出した者即ち生産者から、使ふ者即ち消費者に直接渡されるのではなくて、必ず一度びは、この兩者の間に仲繼をする商人といふ者の手を經て、商品として市場に賣り出されるのであります。で、學問上では、かういふ生産のことを商品生産と稱び、また市場生産とも言ふのであります。

二

今日の世の中に於きまして、「物」の生産がかやうに、商品として市場に出し、賣つてお金を儲けるために行はれるといふことは、これは非常に重要なことでありまして、このことが因となつて、やがて私共の現に住みつゝあるこの世の中の總ての性質が、今日のやうなお金本位の世の中となるのであります。が、それは今、別問題としまして、さて、それではそれほど重要な商品の生産は一體、誰がそれを行ふのかといふに、そのことが實に大問題なのであります。

お金を儲ける目的で以つて「物」をつくることそのことを學問上では、「企業」と申しますが、この企業のやり方には、また二つの種類があります。一つは、一人の人が主人公となつてこれを營む場合でありまして、これを個人企業と言ひ、他は、二人以上の者が共同して企業を行ふ場合でありましてこれを團體企業と稱します。この團體企業にはまた、組合でやる企業と、會社でやる企業との二種類ありますが、何れにせよ、今日は大規模な團體企業が優勢になつてをりまして、小

規模な個人企業は、殆んどそれに壓倒されてしまつてゐるといふ有様であります。これはどうしてさうなつたかと申しますと、それは實に機械が發明された結果でありまして、機械の發明の結果は、これを利用して、出來るだけ一度に澤山の物をつくつて、その一個宛の費用を少くする、すなはち、大量生産を行ふ方が結局、儲けが多いわけでありますが、さてその精巧な機械を使つて大規模に企業をやるには多くの「もとで」が要る、到底、一人の能力では堪へ得るものでありません。そこで人々は協同して事業を營むやうになり、こゝに團體企業といふものが生まれて來たのであります。そして、この團體企業が一度び生まれて、大量生産で、製品を比較的に安く、ドン／＼市場に出すことゝなりますと、小規模な個人企業では到底これに立ちうちすることが出來なくなる、そこで、またこれらの人々も團體企業をやり出すといふ具合で兎にも角にも、今日は團體企業、特に株式會社による團體企業が全盛を極めて來たのであります。

　そして今日、かういふ種類の團體企業を營んでゐるところの者は皆、金持ちであります。所謂資本家であります。一體今日の世の中には、私有財産制度と言つて、法律をもつて物

やお金を私有することが保證されてをります。そして人々はそれをどう使つてもよろしい、各人の經濟上の行爲は原則として自由だ、といふことになつてゐるのであります。今日、企業をやらうといふには、第一に「もとで」がなければなりません。「もとで」がなければ企業をなすことは出來ませんが、その「もとで」は、今申したやうな具合で、今日の世の中では少數の資本家が、これを獨占してゐるのであります。

　そこで大多數の私共お互のやうな「もとで」を持つてゐない者はどうなるかといふに、それらの人々は、自分の腕一本即ち勞働を提供して資本家のやる企業に傭はれるといふことになるのであります。けれども、そこに出來上つたところの製品は、資本家と、勞働を提供した私共との共有物であるかといふに、決してさうではありません。それは專ら「もとで」を持つて企業を營んでゐる資本家の所有物でありまして、資本家はそれを勝手に商品として、賣つてお金を儲けてよろしいのであります。これに反し、「もとで」のない私共お互は自分の勞働を賣つて、只賃銀を受けとるだけであります。そしてその賃銀の中から、生活のために、必要な一切の商品を買はなくてはならない、かういふことになつてゐるのでありま

す。

三

以上、今日の世の中には商品生産が行はれ、そして、それは「もとで」を持つてゐる資本家達の團體企業によつて大いに進められてゐるといふことを述べましたが、商品生産と言ひ、企業と言ひ、それらは、もと／＼お金を儲けることが目的でありますから、從つてこれらの資本家達は、凡ゆる方法に訴へて自分の商品を賣りひろめ、お金を儲けやうと努力するのであります。そのためには、他人の損害などを顧る暇がない、少しでも多く自分の商品を賣らなければならぬ、その結果として彼等資本家達の間には、商品市場を中心として猛烈な競爭が行はれことになるのであります。彼等は出來るだけ大量生産によつて、生産費を少くして、競うて安い値段で商品を賣らうとして目茶苦茶に突進するのであります。そして、かやうな競爭をつゞけて行くと、とう／＼お終ひには彼等は、もう競爭の苦みに堪へられなくなつて來るのであります。こしらへた商品は多く過ぎて賣殘りが出來る、營業の費用は增加して來る、どうしても「もとで」はとり戻せない資金が固定する、やり切れぬといふことになつて來るのであります。昨年あたりから流行つて來た圓本の出版などは、どうやら、この原則通りを實行しようとしてゐるかのやうに見えます。

お金を儲けるために大ひに競爭をやつて見た、しかし、遂ひに競爭に堪へられなくなつて來た。さて、さうなつて來ると資本家達はどうするかと言ひますに、そこで彼等はこの競爭をさける新たな方法を考へ出するのであります。彼等は今度はお互に共同して、同業者間の競爭をやめ、その力の一致によつて市場を獨占して相かはらずお金を儲けることをはかるのであります。これを企業の結合と申します。そして、今世界の資本家達の間に行はれてゐる企業の結合の主なものはカルテルといふやり方と、トラストといふやり方の二つでありますが、このカルテルとトラストとは、實に現代の經濟界にのさばり返つて、その共同になる偉大な經濟力を恣に揮つて、私共「もとで」のない消費者等を苦しめるところの巨大な怪物なのであります。

四

先づカルテルの仕組とその作用から申しませう。

カルテルといふのは、同じ種類の商品を生産する幾つかの企業主が、競爭から生ずるいろ〳〵な不利益をさけるため、いろ〳〵な約束をして、その約束に従つて事業を行ふものであります。ですから、これは一種の聯合團體であります。決して各企業主が合同して一企業團になつてしまふものでありません。この點が、後ほど申し上げるトラストと異るところです。では、カルテルはどんな約束をするかといふに、それには凡そ次のやうな六つの種類がありまして、それによつてカルテルにも四つの種類があるわけであります。しかし、カルテルによつては、この六つの約束の中、二つ以上の約束を同時にするものもあること勿論であります。

一、自分の商品を賣りつけるお得意先の範圍を、お互に定めて、その範圍を互に超へないことゝし、同じ範圍内の競爭をさける。

二、商品の値段を同じに定めるか、または、これ以上、安く賣つてはならぬといふ最低値段を定めて、それを守り、商品の値段が下がらぬやうにする。

三、お互に生産する商品の量を限つて、商品を多く市場に出さぬやうにする。

四、カルテルが引受けた註文を、各企業主に割當てるもの。

五、カルテルが市場に出す商品の量を定め、それを各企業主に割當てゝ市場に出させるもの。

六、カルテルがその全體の商品を共同で賣つて、その利益を各企業主に分けるもの。

次にトラストも、同種類の企業主が結合して、互に競爭をやめ、その一致の力によつて市場を獨占して、商品の値段をつり上げ、多くの利益を得ようとすることは、前のカルテルと同じでありますが、これはカルテルと違つて、各企業主がその獨立をやめて、經營を一つに合併してしまう一種の合同團體であります。例へて言ひますと、カルテルはお友達の關係でありますが、トラストは親子または夫婦の關係であります。

トラストはどういふ方法によつて經營を合同するかと言ひますに、その方法は、時代によつて少しづゝ違つてをりますが、今、一般に行はれてゐる方法は次のやうであります。このトラストに入つた各企業主（株式會社）は、その中の一つを以つて親會社とし、他の諸會社を子會社といたします。そ

して親會社は、子會社の株式の全部または大部分を有つて、それらの加入會社の支配權を一手に集中するのであります。かやうにして儲けた利益は、親會社から子會社に分けられる、こんな仕組であります。

五

さて、カルテルとトラストは大體、以上のやうなものでありますが、これがほんとうに大きくなつて、一國內ぢゆうの同じ種類の企業が結合して、その大きな力によつて勝手に商品をつくり、勝手な値段を定めて、金儲けをしたら、それこそ一國の經濟、否、私共お互のやうな「もとで」のない消費者達の生活といふものは、みんな、これらのカルテルやトラストによつて、どうにでも支配せられるといふことになるでありませう。そこで各國に於ても、その弊害を認めて、多少これを取締る法律が出來てゐますが、それだけではとても駄目でせう。彼等は恐らく、手を換へ姿を換へて、第二のカルテル、第三のトラストをつくることでせう。それにはどうしたらよいか、私は、こゝに於て、どうしても消費者の方でもお互に合同して、その利益を守るために、しつかりした消費組合をつくることが、肝要ではなからうかと思ふのであります。

序に申しますが、カルテルは主としてドイツに於て發達しトラストは大體アメリカに於て生れたものであります。最近數年間に於て我が日本にも、カルテルはだいぶ出來て參りました。今其の主なものゝ名前を擧げれば次のやうです。

一、石炭鑛業聯合會（參加石炭會社四四社・生産制限カルテル）
二、電氣銅共販所（參加會社五社・販賣カルテル）
三、製鋼懇話會（參加會社十五社・生産制限カルテル）
四、銑鐵共同組合（參加會社六社・販賣カルテル）
五、日本セメント聯合會（參加會社十八社・生産制限・最低價格協定カルテル）
六、過燐酸同業會（參加會社十二社・生産制限・價格協定カルテル）
七、曹達晒粉同業會（參加會社十一社・共同購入カルテル）
八、晒粉聯合會（參加會社十二社・生産制限・價格協定カルテル）
九、糖業聯合會（參加會社九社・生産制限・價格協定カルテ

ル)

十、酒精協定(參加會社六社・全市場支配)

十一、製粉聯合會(參加會社六社・價格協定カルテル、但し不完全)

その他

十二、製紙カルテル

十三、日本板紙同業會

十四、羊毛工業會

十五、大日本紡績聯合會

十六、鮭罐詰共同販賣會社

十七、强制カルテル

(イ)蠶糸業同業組合中央會第三部

(ロ)輸出組合

(ハ)工業組合

尙トラストは未だ我が國にありませんが、しかし、三井系と三菱系の諸會社から一種の不完全なトラストとも稱すべき結合が行はれてゐます。(詳細は社會科學第三卷第二號薄茂人氏の日本資本主義發達の現段階參照のこと)

佐々木君子氏より

……(前略)女學校に入學すると同時から今日まで、九年あまり私は婦女新聞をよんでゐますし、その外にも種々の婦人雜誌や新聞で間接ながら御意見を伺つてゐますので、始終、どれ位御指導いたゞいてゐるかわかりません。

先日は、婦人消費組合協會の性質や仕事などを悉しく伺ひまして、ぜひ私も、その組合員の一人に加へていたゞいて母として主婦として、家庭的にも社會的にも引立てゝいたゞき、向上させていたゞきたいと切望してゐます。本年二十三才の、一人の女兒の母でありますが、主人が船乘のためルス勝ですから、特別に遊ぶ時間はないとしても、使ひ樣によつてはどんなにでも生かして使へる時間を澤山持つてゐます。それに子供も三つになつてずつと手が省ける樣になりましたし、此ヒマな體を何とか有意義に使つて、もつと生き〳〵した氣持をもちたいと每々考へてゐました。

協會のお申合せの四項は、みな嬉しうございます。暖い親の膝元を遠くはなれて、何もかも新しく、小さい乍らに自分の家で自分たちの生活を初めましてから四年、その間には隨分物質的にも精神的にも苦しみました。その苦しみからえたものは、婦人の經濟思想の如何がどれ位ひどく、家庭生活の改善にえいきやうするかを知る事が出來ました。そして痛切に、それらの問題を少しでも廣く深く一緒に研究するために、いゝお友だちがほしいといつも〳〵考へてゐました。

世の中には、お漬物の尻つぽをかぢつてゐる程臺所の不如意な人でも、外に出るときはお召ちりめんで、たま〳〵さうしたまじめな話が出ても、それは他事、びんぼう人の泣言位に心得へて鼻でわらつてゐられる人も多い世の中、時々若い内はもつと呑氣になるものですよと、注意されるのですが、私にはもつと〳〵考へてみて、有意義に私のひまを使ひたいと思ひます……(下略)

露西亞東部地方に於ける婦人消費組合の活躍



婦人消費組合の作業場で働いてゐるところです
協同作業のにぎやかさをごらんなさい

ヘレン・ブツゾヴア
岡田敏子譯

ソヴエート露西亞東部地方の勞働婦人は、婦人を奴隷的地位に陷入れて來た古い宗教的習慣や、社會的因襲が今でも未だ殘つてゐるために非常に不利な地位に置かれてゐる。この過去の惡弊の凡ゆる痕跡を一掃する爲に、ソヴエート政府の婦人解放に關する諸法令は同地方の活動的な婦人に活躍の舞臺を與へた。

その結果、東部地方では僅か數年以前迄、劣等な存在としてしか認められなかつた婦人が、各地に自分達で消費組合を組織するに至つた。

ウズベキスタンでは、地方の婦人を消費組合に惹入れる爲めに、先づ婦人だけ特種の消費組合店舗を組織してゐる。この店舗は全く婦人の手で管理されてゐるので、店内には一人

斯様にして、コーカンド市の同組合店舗は千九百二十六年十月一日から千九百二十七年の一月一日、即ち三ヶ月の間に三百二十八人の組合加入者を獲得した。然るに同じ都市に於ける消費組合店舗（婦人の管理してゐないもの）では同じ期間に僅かに百二十八人の組合加入者を得たに過ぎない。

ウツベキスタン消費組合聯合の代表者は、婦人組合店舗に關して、次のやうな興味ある意見を發表してゐる。『消費組合の實際的宣傳は婦人店舗によつて、充分その效果を擧げてゐる事を證明してゐる』又『婦人消費組合の店舗が良好に發展しつゝある事は、その事業の成績によつて明にされた。賣上高の増加、取扱物品の充實は、益々婦人顧客に對して滿足を與へつゝある。然も店舗支拂經費は確實に低下しつゝある。この事實は十個の婦人店舗によつて見る事が出來る。千九百二十六年――二十七年の間には月々の經費が平均賣上の百分の九・四四であつたものが、現在では百分の三・一四になつてゐる。

又、消費組合内の役員の地位にあるウスベック婦人の數は次第に増加しつゝある。千八百二十六年には僅かに二十九人の婦人委員があつたのみであつたが、千九百二十七年には四

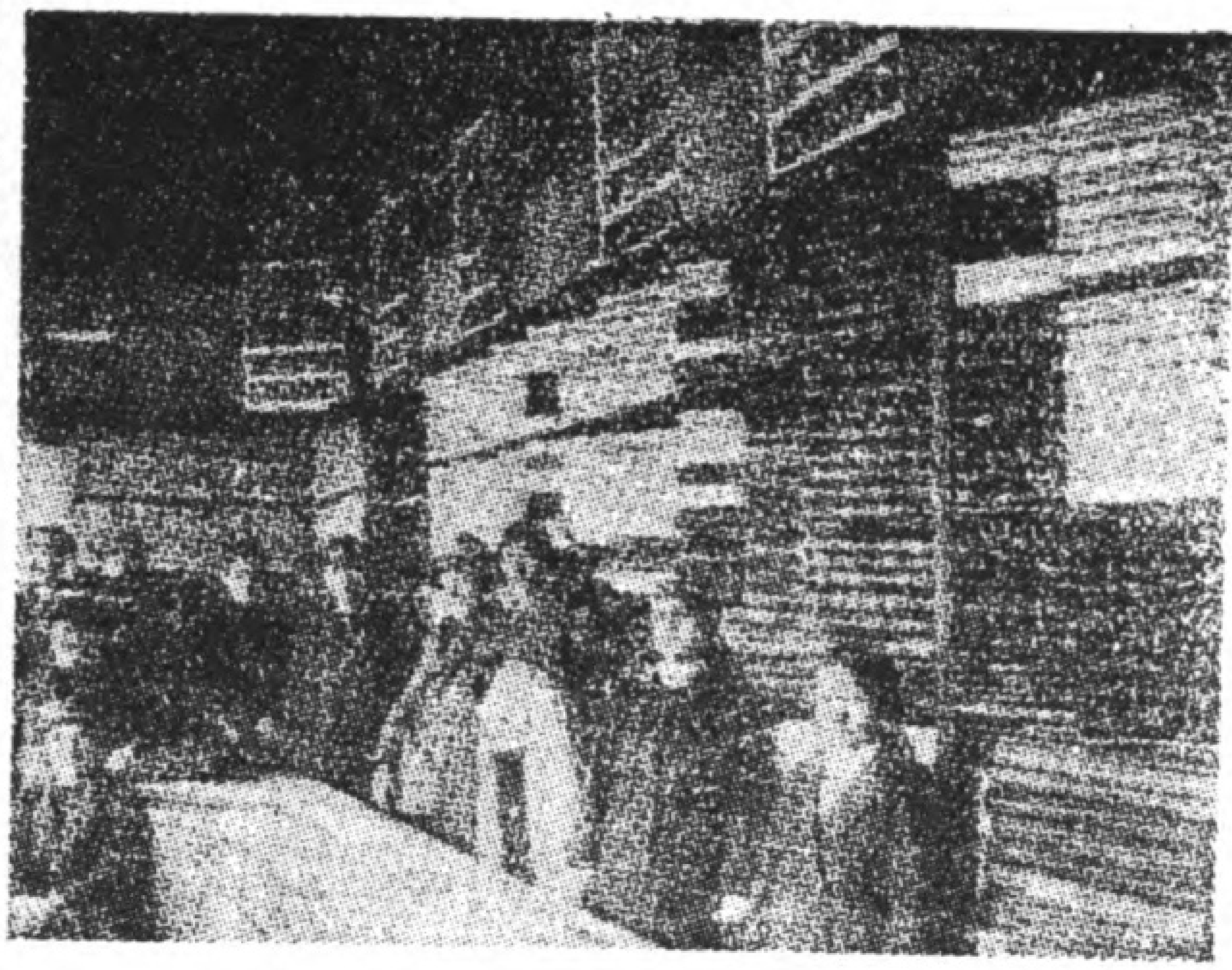
の男子も居ない。こんな風にして、地方婦人は漸次に消費組合に參加するやうになつて、古い迷信の重荷からやがては解放される事になるであらう。

次の表に依つて、ウスベック地方の婦人の間に消費組合が確乎たる地歩を占めて發展しつゝある事を知る事が出來る。

月　日	婦人消費組合店舗數	婦人の顧客
千九百二十六年一月一日	1	126
千九百二十六年三月八日	6	880
同　十月一日	14	2,091
千九百二十七年一月一日	17	3,583
千七百二十八年一月一日	57	9,398

これに依つて見ても、婦人消費組合の店舗及顧客がだんだんと増加して發展しつゝあることがはつきりと解る。この事實は九千人のウスベック婦人が既にその家庭や農場から一歩足を踏み出して消費組合店舗の支持者となり、又漸次に公の仕事や、ソヴエートの敎化に參加しつゝある事を示してゐる。何故ならば、此組合店舗の婦人顧客は次第に積極的にこの仕事に興味を持つやうになり、進んで組合加入者になるであらうから。

十五人の婦人が委員に選ばれてゐる。
ウツベキスタンの消費組合は、又一方に於て、一般婦人の生活改善に對して積極的に活動してゐる。組合は無料で母親達の相談に應ずる二ヶ所の診療所を作つて、之を經營してゐる。
同組合は二ヶ所の幼稚園を經營してゐるので、婦人達は果


婦人消費組合の店の構へです

樹園や、綿木畑へ働きに出掛ける時に、子供を預けて行く事が出來る。
ジオルジヤ、アルメニア、アゼルベーヤンの諸消費組合を含んでゐるトランスコウカシア地方消費組合聯合では、千九百二十六年七月一日の調査で二萬九千七百九十五人の婦人組合員が（全組合員の百分の六・八）の一月一日には、それが五萬七千八十一人（全組合員の百分の八・二）千九百二十八年に增加してゐる。同地方に於ては消費組合役員の選出に際して、婦人の參加を增加させる爲めに、各婦人組合店舖の機關を通じて豫選を行ひ、五十二の婦人協議會が催され、その席上に於て、役員選擧に婦人が、參加する事の重大な使命を徹底的に說明した。その結果役員選擧に際して、婦人は重要な地步を占むるに至つた。
ジオルジアに於ては千九百二十六年には二十九名であつた婦人委員が、千九百二十七年には三十一名になつてゐる。アゼルベーヤンでは千九百二十六年の二十二名に對して、千九百二十七年には二十五名の婦人委員が選出された。
生活改善に關するトランス・コーカシア地方消費組合の活動は、全く驚くべき程積極的に進展してゐる。信ずべき調査

によれば、同消費組合は組合員の兒童の爲めに千九百二十七年には七個の運動場を持つてゐたが、千九百二十八年には既に十六個を持つてゐると云ふ事である。

そして數個の消費組合では五月一日のメーデ祭を兒童運動場に於て擧行さへするに至つた。トランス・コウカサス地方聯合のトランスポート消費者組合では兒童の爲めの特別の部屋を建てゝ、母親達が留守になつても、專門の敎育家がこれを保護するやうにしてゐる。

いろ〳〵の關係から、東部ソヴエート婦人に對する消費組合の生氣ある活動は非常に困難な問題であるが、それにも係はらず。ソヴエート消費組合運動者達は、全勞働階級の支持の許に、東部婦人の組合敎化を阻止してゐる凡ゆる障碍を征服しつゝある。

「わたしの生涯」を近代女性に

花野富藏

イサドラ・ダンカンの悲しい報せがあつたのは、もうかなり古いことだ。

この世界に二人とない偉大な藝術家の死があまりにも日本人の心臓を震はせなかつたのは、たとへ、かの女がスパイの嫌疑で逐はれたことも縁遠いものにさせた一因ではあつたらうけれど、とにかく遺憾なことだつた。

三四ケ月ほど前に出たかの女の『わたしの生涯』についても、不幸にして、誰れからも聞かれなかつた。わたしは疑つた——これは面白くないために誰れも言はないのだらうか。なるほど、さうかもしれない點もあるにはあつた。しかし、始めつからお終ひまで面白い書物なんて、さうあるものぢやない。それに少くともわたしには、この書物が現代の婦人の必讀書だとも思はれるのに、遺憾ながら一人の日本の婦人も口を開かうとしないやうに見られたのだつた。

わたしがこの原稿を書くのは適任でないことを知つてゐるだが、誰も書かないなら、書いてみるより仕方がない。

なによりも、かの女の晩年がわたしをひきつける。ルナチヤルスキイでも言はなくてはならぬやうな議論を口にするかの女も、年老いるとともに一番怖れたものは、やはり普通の女と同じやうに、自分の容貌のことだつた。かの女はどんなに年老いても、戀を忘れることのできない女だつた。つまりかの女に言はせると『宿命の女』だつたのだ。なん回かの戀愛の悲喜劇の舞臺では、かの女はいつも戀をする女となつてされる女とはならうとしなかつた。これは勿論、あくまでも自由を求めて、自由に死んだ女の戀の仕方にふさはしいけれど、ロダンの劇しい戀を受け入れることのできなかつた悔がいつまでもこびりついて離れなかつたのも一因だつたらうかこの偉大な彫刻家ロダンとの挿話はあまりにも著名であるが

かの女自身の素朴なあけすけな筆に現はされると、野人ロダンの印象が力強く浮きだしてくる。獨歩よりも誰れよりも劇しい情熱を持つてゐたロダンに、「復活したパンの神」に、自分の處女を捧げられなかつたことの歎きを、かの女は墓までも持つて往つたのだつた(この劇的場面はけだし壓卷だらう)

かの女は死ぬまで美のことを忘れなかつた。老いの强迫觀念を持つてゐたとも見えたらう。かの女は耄れてしまふよりは自殺を擇んだ。散り朽ちてしまふよりは滿開のうちに自ら散りたかつた。かの女は言ふのだつた。

「もう年とつて？　醜くつて？　まあ、怖いわ！　死んだ方がましだわ！」

死ぬすこし前のことだつた。寫眞を新聞に載せるのについて、男の人々に訊いてみた。

「あなたがたはどうお思ひになつて？　まだ戀される資格があるかしら？　まだ、それほど醜くくはないでせうか？　わたしの戀愛生活はまだお終ひぢやないでせうか」

イサドラはもう若くなかつた。かなりに肥つてきて、醜くくなつてゐた。

この時、男たちはなんと答へたであらう？　わたしたちは不幸にして知ることができない。しかし、この有名なダンサーの死が、その解決の鍵なのだ。

恐くは、かれらは何も答へなかつたらう。或は騎士の道を守つてギャランな言葉をはいたかもしれない。しかし、かの女はなにもかも知つてゐたのだ。――「イサドラはもう老いた！　イサドラはもう美しくない！　あゝ、もうこの世になんの樂しみがあらう！」

ギリシャの大自然のもとで、自然の神々の舞臺の上で、イサドラは生ひたつた。アンナ・パブロアがクラシツクな、技巧的な舞踊で、ブルジョアの白い拍手をかち得たとき、かの女は太い骨ばつたプロレタリヤに胴あげされた。イサドラの踊りはクラシツクよりはプリミティブだつた。纖細な技巧よりも自然そのまゝの技巧だつた。

かの女の戀がそれだつた。原始的な戀！　かの女はいくたびか戀をした。そして、いくたりかの子供を產んだ。

「結婚は女にとつて、最も不道德な歷史であり、最も有毒な不健康な不道理な狀態である。女たるものは結婚を廢止する義務がある」

かの女は結婚を排斥した。かの女にとつて、結婚は「一切

の戀愛的空想の宿命的な死滅」であつた。

しかし、かの女はけつして、子供の養育がしたくないから結婚を怖れたのではなかつた。

現に、かの女は父親が顧みなくなつても、自分の手で養育した。不幸にも初めて出來た子供らはあたたかい母親の胸から消えてしまつた。かの女は氣ちがひのやうになつた。そして子供欲しさに、思ふ男と戀に陷ちた。しかし、その待ちこがれた子供は生れるとすぐに死んでしまつた。

現代の婦人たちの所謂『戀愛の遊戯』をかの女は一度もしたことがなかつた。自分の戀する資格ある男、または、資格ありと思ふ男に戀した。しかも、熱劇な、感覺だけのものでない、生命の戀をした。子供の欲しいと思つたときに、子供を造つた。かの女は結婚しなかつたが、妻とはならなかつたが、母とはなつた。『雌』にはならなかつた、そして『母』にはなつた。

それはひろびろとしたギリシヤの大自然の中に踊つた、神々の戀の復活だつた。赤裸々な原始時代の戀！　それがかの女の戀だつた。

かの女の生涯――藝術と戀愛――それはあくまでも原始的であり、同時に、あくまでも現代的なものだつた。

世界に二人とないと持てはやされた、花々しかつたダンサーは、さびしく、貧しく、死んで往つた。アンナ・パブロアの幸福な死と思ひ合はすとき、わたしは哀愁と同時に、微笑をも禁ずることができない。

先生が一生懸命。勉強の大切な事を吹き込まうとして、

「あなた方が、いづれ世に出て、如何なる道を步かうとも、最も缺く可らざるものは何ですか。」

生徒の一人「靴。」

檢事「その事件のあつた日は何月何日であるか。」

女「ハイ、確かな記憶はございませんが、なんでも雨の降つてる日でした。」

主婦「この頃は物騷だから、よく戸締りを氣をつけてお吳れ。」

新米の下女「大丈夫でございますよ。私は盜られて惜しいやうなものは何も持つて來ませんから。」

アホー色の吐息

並木理良

不健康な肉體が
私を憂鬱にするのか
いや
憂鬱が
私の健康までも奪ばふといふのか

いま
十錢玉をもつて上つて來た女の子の
トマト色に健康な頬を
私はコツソリぬすみ視た

あの子には戀はないのか

愛人の名前も吸ひあきた私……



わが身邊の記

奥むめお

あたゝかくつきりと日が晴れて、秋らしい幾日かゞ續いた。こんな日和には私はよく南信の伊那の方へ行つたときのことを、憶ひ出す。下伊那、上伊那、飯田のあたりには「婦人運動」を讀んでゐて下さる方が大分多いので、時折のたよりでいろ／＼とあちらの樣子をなつかしく思ひ起す よすがとはなつてゐるが、然し、あの上つたり降りたりの嶮しい山道――隨分景色がよくつて、上をみても下を見ても、聲をあげて叫びたい樣な氣持でした――を、犬と一緒になつて人力車のあと押しを自分でしながら、汗を拭き／＼登つてゆく。雪が降つたときや、まつ赤にまつ黃に紅葉したときの樣子などを、話して聞かせて貰

現實の戀はどこにあるのだ
純情を胸にひめて
おとなしくかれ樣とするリラは
泪の總合計である憂鬱の中で
アホー色の吐息ばかりを數へて見る。

——二八・一〇・七——

着物を喰ふ虫

突然！
梧桐の葉が大きい音をたて　地上におちた
白ぼけた芒の穗が
おびえた樣に散つた
私は妙に惡感を覺えて
たつた一枚あるメリンスの羽織を出した
おゝ、憎むべき存在！
白く咲いた花の部分へ

ひながら、今度來るときはさういふ時候を擇びたいなあ、と、そんなことを考へてみたりもするのであつた。

然し、あの時分の友だちの多くは、すでに一人前のお父さんになつて、家業に忙しいらしい或ひは「もう靑年運動でもあるまい」年配になつて、まるで私たちの知らないその頃のまだ若かつた靑年衆が、そのあとを繼いでやつてゐられるのであるらしい。いや、それよりももつと、大きな變り樣は——南信一帶にわたつていはゆる共產黨狩りがあつた。そのために、あの人、此の人等々、音信不通になつた友人が大分多いのである。みんな眞劍な、純情の靑年たちであつた。なつかしく思ひ出される人々ばかりである。

處女會のために、熱心に働いてゐられた娘さんたちも、多くは、もういゝお母さんになつて忙しく暮してゐられることとであろう。救ひのない農村婦人の現在の生活について、あんなに夜更けるまでしみ〴〵と、語り合つた娘さんたちが、現實の生活に於てどんな主婦ぶりで、働いてゐられることか？　若い頃よその事のやうに聞いてゐた貧乏も、わが身の上にしみこんだ時分でもあろうか、とそんな

うづくまつた一塊の虫けらである
蓄生!!
着物を食ひきつた上で
私を裸にしやうとでもいふのか?
そして……

戰慄――
憤怒――
だが……
手ごたへのない莫迦な奴らだ

冬が來てるぞ
白裝束の入來だ

その日
私は再びまつかな友禪のかげから
ひかれゆく屍の行列を目送しやう。

事も考へられるのである。當時の青年たちの良人振りも、いろ〱と話し合つて來てゐるだけに私としてはどうしても、一度は見て來たい、見せて貰はねば氣がすまぬ人々の顔をつぎ〱にと私は大分に憶ひ出すのである。この人たちの中から、ほんとうの農村青年男女の運動が、世帯じみた、土まみれのまゝの形で再現してほしいと思ふ。

秋になつて希ふことは、四度目の私の南信行きを、今度こそゆつくりとした日程で遊びがてらしてみたいといふことである。いつもぎり〱一杯の日程で、おひまはされてばかりゐたから。

高知共働社の福永久壽衛さんが、土佐から上京してみえた。この春高知に於いての消費組合運動に就いて、福永さんらが種撒きをなさるについて、私がお手傳ひに上つたわけであつた。あの當時撒かれた種はどう伸びましたか? あの村は? あの町は? 半年ぶりに二人の話は、とめどもなくつゞいていつ果てるとも知らずつゞいた。

それに、秋田の農村自動車利用組合のやうな計畫をすでに、福永さんも抱いてゐられた

着物

松本正枝

立派な着物をきて
美々しく粧をこらし
屈託無げな
ブルジョア婦人が
自動車の上から
餘裕のある顔で
ジツトみつめる時
　或は
ゆきかひの路上で
チヨツト視線のあつた時
　あゝ粗末な着物！
　恥かしい私の着物！
と、ヒヨツト電光のやうに私の頭にひらめく影を
なんとしよう？

さうで、今度決心してそれを一臺買ひ求め旁上京してみえられたといふのである。ドクトル馬島氏が、常用にしてゐられたのを、讓りうけられたさうであるが、小ちやい福永さんが操縦すれば、自動車は一層大きく見えて得ですねえ、と私がからかつたら、いや、ほんとうに一番大型なのです、と福永さんはムキになつて辨明なさるので、一層みんなが笑つてしまつた。私も、福永さんらのお仕事のヲツパ卒になつて、もう一度南の國の空高き高知へ、遙々と出かけてゆきますといふ約束をしてしまつた。

　今月末十一月號「婦人運動」の出來る頃私は旅の人になつてゐる事であろう。

　それに、福永さんは、まじめな產兒制限運動者である。上京後もあちらこちらと、この運動のための專門家に、一人のこらず會つて來て、最近の傾向について教へを乞ひ、自分の經驗を述べて專門的な立場からの、批評を求めて步かれた。

　福永さんには、歸國してからあとの運動方法について一層はつきりした確い信念が、植えつけられたやうに見えた。そしてしみ〴〵

私だつて人間だ
そして働いてゐるんだ
立派な美くしい着物が着られぬわけはない！
食べる物もけんやくして
活動へも行かず
一生懸命こしらへた錦紗の着物
さあ私だつてこんなに美しいぞ
こんなに呼び度い氣持で
一歩外へ出れば
お丶何と恥かしい事よ。
ナツパ服の私共の兄弟が
道路工事をしてゐる
電車を、汽車を、バスを運轉してゐる
畑でさくを切つてるあにさん
山でたきゞをとるおぢいさん
桑をつむおつかさん
お丶いかに私共の味方、兄妹の多い事よ！

と氏は私に云はれた。東京の産兒制限運動もどうしてもあなた方のやうな、まじめな婦人たちが中心になつて、立直して貰ひたいものですね。大抵の人が、通信販賣をしてゐる營利業者ではないですか。危險なことですね。どうしてもこれは、金儲けでない運動としてまじめに行はれなければ、幾多の弊害を生むもとになります。と。

派出婦會の元祖大和俊子さんから「回顧十年」といふ小冊子を送り寄越された。大和さんが婦人共同會といふ派出婦派遣の仕事を、初められてから今年の十月一日で、丁度十年になるさうである。そしてこの小冊子は、いろ／＼な十年間の回顧であり、事業の發展史であり、派出婦といふ新しい職業に携はる婦人たちへの、將來の示針にもなるであらうと思はれる有益な記錄のまとめられたもので、非常に興味深く私は一氣に讀み卒へて、扨、深い感慨にうたれたのであつた。

全く新しい、これまでになかつた派出婦といふ婦人の職業分野を大和さんが開拓して、——その間には、事業の盛衰もあつたろう澤山の婦人を取扱つてゆく上での苦しみも、ど

みんなは私を見て何と云ふだらう？
アイツも俺達を搾取する階級の女だ！　と
美くしいと思つて作つたこの着物
これは働く着物ではないんだ
この長い袂、廣い帶をしよはされてゐるこの女の服裝
あゝやつぱり美しくはないんだ
活動によつて表現される美
婦人の着物は
働き着が完成するであらう。

んなに大きかつたことだろうと、推察されるのであるが——十年の今日では、一つの流行でであるかの樣に、派出婦會が簇出してゐる。そして頼り少ない派出婦の勞働を搾取して幾多の弊害を流してゐるものさへ、尠くない樣である。

それはとにかくとして、婦人の職業としての新しい分野を獲得した派出婦たちが、社會人としての職業婦人としての自覺に入つて、今後どう發展してゆくだらうか。

「回顧十年」は一面派出婦會事業の發展史であるとみられるやうに思ふ私は、大和さんがこの次に物されるであらう「回顧二十年」誌は、必ずや、派出婦自身のうちに流れる一つの意志——それは一般婦人運動と、流れを一つにする社會的な一つの大きな脈であると、思ふのであるが——それを中心にして、消長する婦人運動の側面的な、記錄にもなることであらうと考へられるのである。

派出婦といふ職業婦人の上に、私は大きな期待をかけて、時代的な流れがどう流れてゆくかそれをみてゐやうと思ふ。

婦人界近事

汎太平洋會議の報告

汎太平洋婦人會議に出かけて行つた日本の婦人代表諸氏が歸國してから、まち〳〵の報告を、而も船の中でもハワイでゝも醜く行れたと聞く暗鬪やイガミあひをその儘に持ち越して泥のかけ合ひをしてゐるので土產話を待つてゐた一般の者はあきれて口ぽんやり。結局あちらもこちらも盛大に準備してゐた歡迎會を遠慮して、コソ〳〵と報告會にして濟ますことになつたとは、恥しいこと。みな、內地に於ては一流の婦人先覺者で通つてゐる人たちなのだから一層仕末に惡い。

無產婦人運動が農村に入つた

近頃活氣をおびて來た無產婦人運動が農村の農婦にも娘さんにも學校の先生にもど ん〳〵滲み込んでゆく。反動團體女子靑年團の組織に力こぶを入れてゐる當局としては、いくら押さへつけても新しい時代の解放思想が若い婦人たちの頭へ一杯にひろがつてゆくのでやきもきしてゐるさうである。當然のことゝ云ふより外ない。農村の婦人も、やつと近頃目がさめてほんとうの自分の姿をみる事が出來る樣になつたのだ。

『職業婦人の家』のために募金

職業婦人社では一萬圓計畫の「職業婦人の家」を完成させるために募金運動に入つた有職婦人のためのクラブで、ゆつくり休んだり、遊んだりするために使はれる。婦人のために短期長期の講座や、講習會や、研究會なども常に催すことが出來るやうな婦人會館である。

東京聯合婦人會の婦人會館計畫

東京聯合婦人會でも、基金三十萬圓の婦人會館を建てる案を決議した。全關東の婦人のために、臨機應變、よく生かして使へる樣な重寶な會館を早く建てゝほしいものである。

參政同盟の六週年

婦人參政同盟では十月七日、創立六週年の總會を開いた。

婦人へ消費經濟思想の養成

東京市社會教育課では、婦人の間へ消費經濟思想を涵養する運動に大童になつてゐる。本位田祥男氏や奧むめお氏らの講義に添へて、家庭實務の講義をも專門家に依賴してして貰ふてゐるので、近頃いゝ企てゞあると評判がよろしい。

漸くにして、消費者としての婦人が協力一致して火ぶたを切る樣な經濟運動も、芽ぐまうとしてゐるのである。

女教員大會の議案

小學校女教員大會の議案十一月二十二日から三日間東京の新築した帝國教育會館で開かれる同會議の議案がきまつた。

一、女教員の向上を阻害させる原因及これを除く方法如何

一、最も堅實なる國民思想涵養の方法如何

三、わが國の初等教育に於ていかにして國際的教養を施すべきか

みたところどれも抽象論すぎるでないか折角一年一遍ぎりの會合であるから、もつと女教員の生活にピンと來る樣な具體問題を一つ入れて、熱烈に討論し、又、生活革新の第一歩をその日からふみ出す樣にしたらよかろうと思はれるのである。

女子教育振興委員會では、文政審議會の委員を招待して、女子の高等教育のためにいろ〳〵懇談をとげた。



浪人脱出記

開地敏子

十月の初旬、長谷川時雨女史の『女人藝術社』にお邪魔したときフト目に止つたのは、女人藝術十一月號へ掲載の北村兼子女史の原稿のゲラ刷である。

題目が面白い、曰く『女浪人』とある。今様清少納言、自稱大阪の妖星、實に口八丁、手八丁の北村女史の説に依ると、モダンガールの次の時代に來るものは即ち女浪人時代である。相當教養ある女はもはや家庭地獄にアップアップすることを拒否する結果、有識自由職業に携つて居た婦人は、一度失職すると、現在の社會經濟狀態では、思ひ切つて女中や女給に身を墮せないとか、自分の氣に入つた職業に就くことが出來ぬから女浪人ならざるを得ないと云ふ風なとが、女史一流の輕妙洒脱な筆でかきなぐられて居た。

私は非常に面白い尤もな見方であると痛感した。

新らしい女の次ぎに來たのが所謂モダンガール、これは確かに云へないが、何でも新居格氏あたりの御命名だつたと記憶する、そしてネキストゼネレーションが、北村女史のお説通り女浪人時代であらう。

全く私の周圍を見ると、所謂女浪人が非常に多い、かく云ふ拙者開地敏子も四五日まへまでは、所謂女浪人の仲間で御座つた。

自分が浪人になつて周圍を見渡すと、イヤハヤ女浪人の多いこと、多いこと。實に右を見ても、左を見ても、女浪人がウヨウヨ蠢いてゐる。

併し浪人と云ふても實はピンからキリまであつて、浪人浪人と口喧ましく申しても北村女史の様に、生活苦の脅威を受けないで平氣で面白おかしく暮すことの出來るデモ浪人から、什うしても今日一日の食にさへことかく瘦浪人、乞食浪人まであるんであるから、一口に浪人として百把一トからげに解決して仕舞ふことは社會政策上甚だ困る。

併し此等の女浪人を如何に消化するかと云ふことは、實は大きな社會問題、婦人問題であつて、所謂高等浪人が多くなると、いつ社會組織に一大變化を期さないものでもない、でもこれは優しい女浪人のことだから、勿論革命と云ふ様な荒つぽいことはやりはしまい、そのかはり、モット別の意味の性的革命が來はしまいかと私は考へる。

何故なら相當有識階級の女浪人が三々五々云ふことにや「何か、おもしろい巧い仕事はないものでせうかネエ」とハンコで刷つた様に云ふ。何かおもしろい巧い仕事—世の中に安いものと化物がない様に、此の世智辛い世の中におもしろい巧い仕事なんてあり様がない。

女浪人の境遇を脱し様とすると、全く北村女史の說ぢやないが、家庭地獄に眼を閉じて飛びこむか、さなくば女中さんか女給でもやるより、サウちよこらちよつと女浪人の拔け口はありはしない。

ところが女浪人と云ふ奴は贅澤で、辛棒がなくて氣位が高いと來てゐるから、グズグズしてゐる者が甚だ多く、二十一世紀は女浪人の處分に爲政者は頭痛鉢卷をさせられることだろうから、私が先手を打つて實は解脫記をと考へついたのであるが、世の中は全くまゝにならぬが憂世の常でかく云ふ私自身が浪人解脫に實は大分苦しんだが、結局やつぱりクダラヌ寢言でもかくより、飯の食へる方法もないので、適職の見つかるまで行方不明になつて女中奉公をした。女中奉公十日目に、又ペンを握る身となりにけりだ。

そこで私は誰にでも云ふのである。「女中をやる氣持、女中をやる勇氣があれば浪人なんて一日もせずにすむ。失職したら口の見つかるまで女中をやんなさい、女中は一等眞面目な仕事です」と。

女中沸底の聲こそ聞け、女中過剩の聲はまだ聞かぬ、高等浪人を氣取つてヘリクツを並べてゐる様なことぢや就職難は解決しはしない。デモ浪人なら兎に角乞食浪人、痩浪人に浪人解脫の方法として女中を宣傳する、女中業の中にあらゆる修養機會は含まれ、心掛け一つでいつでも浮びあがつて女中から解脫出來るのである。私の浪人解脫法はとかく簡單ではあるが、私自身が實踐躬行するところに千金の價値があるではなかろうか。

女中を輕蔑する時代ではない、もはやお高く止つてゐる時代ではない、眞劍に額に汗して食べることを考へるべき

時代であると私は考へる。

レーニンの言葉ぢやないが「働かざるものは食ふべからず」北村女史先見の明を、傷つけるわけではないが、女浪人時代を飛ばして、女の勞働自覺時代がほんとうに來る樣に「おもしろくて巧い仕事」でなしに「眞面目で眞劍な仕事」を欲する樣になつて欲しいものである。妄言多謝。

女らしさとは

丘　しづ子

「姉ちやん！　昨日の新聞讀んだ？　ムツスリーニーの事」

不幸にして妾は讀まなかつた。

丁度其日は黨の（舊勞農黨）方の應援演說や、近火、祖父の死、雜誌編輯の雜務、等々に追ひまくられて、新聞どころの騷ではなかつたのだつた。

妹の言葉によると、ムツスリーニーは堂々とこんな意味の事を云つたらしい。

「女性は家庭内にあり只男性の內助者であるべきものだ。」

此の短ひ言葉の中に如何に大きな侮蔑がふくまれてゐるか、妾達女性はハツキリ知らなければならない。

彼のムツスリーニーが今尙こんな事を云つて居るとしたなら、あまりにも遠ひ女性の人間界の一員としての位置！

かくして妾達の鬪爭はいよ〳〵困難を深めて行くでせう、けれど其困難は妾達をより鋭くする武器ともなるのだ

女だから！　女のくせに！　女の出る幕ぢやない！　女の知つた事ぢやあない！

男性が困つた時、うるさい時、女性を突き伏せる卑怯極まる熟語だ。

其の場合、あゝそうかと、おとなしく引込む人、口惜しいながらも、どほする事も出來ず引込む人、然し一步强く否！　それは、かうだと正しい意見を述べた時。

男性は、亦自身の立場と云ふものに全然痲痺して怒つた女性それ自身が共になつて、出しやばりだ、女らしくないと罵しるではないか。けれど妾達は只口惜しがつてばかり居る時ではない。混亂せず、迷はず

こゝでしつかり叫ばう！

女らしさの內容について。

多くの世の男性よ！　あなた方はあまりにも、女らしさ

と云ふ形容詞について感ちがひをして居る。

たとへそれが悪ひ事であつても、男の云ふ事なら、へイ〳〵と無定見に從ふのが女らしいと、亦自身の云ふ事がどんなに正しく良くても、それが男性に取つて不利としたなら決して認められないのである。

「正しいと想つた事を、どこまでも通す力がないのだから結局女は駄目さ」

然しそうは云はせないでせう、女性を、かくまで小さく押し、ひしいだのは誰れか？　自身の立場をはつきりし、男子に對して負擔を感じめさせず、共にほがらかに働いて慘な女性でなくなる事がほんとうの女らしさではなからうか。

無産階級の苦しみが無産者でなければ、わからない様に妾達女性の此の苦しみ惱みは、私達女性でなければ決してわからないのであります。

ブルジョアの所謂、令孃、奥樣ならいざ知らず、妾達無産階級女性にとつては一日も否一時も早く女性の自由を、女らしさの內容をどこまで明らかにし、獲得するのが急務であるのです。

妾達も人間だ、それでありながら男性の附屬物として活きて行くと云ふ事は何と苦痛であらう。と同時に、男子に取つても素晴しい重荷ではなからうか。

けれど、その間の事は、あまりにも永年の因襲が習慣づけて終つた、お互ひは只痲痺症の中にどほする事も出來ずうめき、もがひて居る。そして表面的の男性は結局暴君になり得るのだ。

自己を殺すと云ふ事は、同時に奴隷化する事ではなからうか。

夫を立派に活すために妻は家庭にあつて、その夫の位地が高まれば高まる程、自己を殺して行かねばならぬ、これが現今の賢婦人なのだ、この利己主義の夫に向つて、妻は怒る事を知らず、情ないかな、より以上自身を捧る事に努力する。けれどこれは、あまりにも慘な發展ではないか？　同じ人間でありながら、其存在を奴隷としては、喜びむかへられるものゝ、人間界の一員としては邪魔にされ嫌はれる。

然しこれで眞實の文明が唄はれると自惚て居るとしたなら、かたわの文明を祝ふ、かたわの文明人だ。何故なら、

「婦人が採るところの地位は或る民族の文明を計る最良の尺度である」と。

共に働き、共に笑み、共に話し合つたならなんと意義ある文明の廻轉であらう！

妾達プロレタリアー婦人の任務は大きく多い、男性によつて加へられるところの迫害、とブル婦人によつて、浴せかけられる憎惡との中に、自己をしつかり教育しつゝ自由へ！　自由へ！　解放に!!

妾達はあくまで戰ひぬくでありませう。そして眞實に女らしい、ほがらかなる女性の朝を輝く太陽と共に、この暗の文明の幕を切り落して見せませう。

無産黨の演說會にて

葉山曉子

私は去月末T市に開かれた無産政黨の黨務擴張及び現內閣打倒の演說會をきいた。その時感じた事を述べて見たいと思ふ。

婦人會の發達せぬ、又一般婦人の政治的自覺の稀薄と思はれるT市でも、無産運動の政治的進出が著しく、政黨として表面的に水平線上の運動として根強く基礎づけられ全線的な眞に無産階級的な政治鬪爭を開始し、それに伴つて婦人の無産者意識を濃く反映した團體も多數出來て、それ〴〵の部門に依つて活躍してゐる今日、たとへT市にそれの具體的運動がなされてゐなくても、自覺した婦人により聽衆の中の幾分は占められてゐる事であらうといふ讓步した氣持を抱いてゐた。然し入場して見てその氣持は見事裏切られた。あまりの期待の外れに少からず失望した。否むしろ一種の憤激をさへ感じた。見よ！　ぎつしりつまつた場內には婦人の片影だに見られないではないか！　只自分達二人のみだ。

四萬足らずのT市民、及びその日の中に出られる近郊の農村(のみには限らないが)中の婦人の階級は多種多樣だ。地主の奧樣もあれば、商家の主婦、女敎員、事務員、農婦女工其他色々ある。之等の婦人の中で痛切に現社會の制度缺陷、機構等直接に間接に重大なる關係ある事柄に就いて考へてゐるものは一人も居ないのか？　なる程地主の奧樣は、小作人から最大限度の搾取を敢へてして幸福に暮して

ゐる。商家の主婦も卽ち餘剩價値なるものによつて家は益々富んで行く。併し現在の資本主義下に於ける彼等中小商人が大商店に壓倒され蹂躙されて、近き將來には當然沒落の悲運に遭遇することは豫知せねばなるまい。

事務員は或る意義を見出して自ら進んで職業に就いたとは云へ、やとひ主はその精神搾取により私腹をこやして居る、農婦女工の事は云ふ丈野暮だ。斯くの如く現在の女性は男性に資本家にしいたげられてゐる。この女性の中、眞目面に自分達の不幸や痛苦のよつて生ずる源泉を考へてゐるものが居ないといふのか。卽ち社會的關心や社會意識に自覺めた者が一人も居ないのか？

臨檢の警官の都合や何かで内部がゴタ〳〵してゐるらしく、定刻をすぎても幕は上らない。自分共を見る男子の目は好奇や疑惑や皮肉をこめてうるさく凝視する。場内には不安な空氣が漲ぎつて居る。

過去封建時代の女性は、只家庭内のみの存在物であつて男子の征服欲をみたす被征服者としてしかその存在の意義はなかつた。だから彼女等は人形であり、置物であり、人間にして人間ではなかつた。なぜ彼女等は斯の如き待遇を受けねばならなかつたか？

それは女性自身が人間として自覺しなかつた事にも依るが、女が只男子に食はしてもらう、男子の經濟的寄生蟲にすぎなかつたことが最大原因ではなかつたか？　自己の城塞たる家庭の財政の事にすら何一つの發言權はなかつた。まして、國政に參與するなどは考へても見なかつたらう。男子に尻尾迄押さへられてゐた彼女等は社會の何物も知らず、時代の進展、推移等には馬耳東風であつた事は批難すべき餘地はない。

然し時代は推移する。いつ迄かゝる玩弄物の狀態に甘じてゐられよう。いつ迄男子のなすがまゝに隷屬してゐられるんだ。機が熟せば柿も落ちる。先覺せる女性により警鐘は亂打された。彼女等は遂に社會を發見した。長い〳〵忍苦と犧牲の後の反抗だ。

自由主義がすたれ資本主義の勃興につれて、生存競爭が激しくなる結果、女子も家庭に安閑としてはゐられなくなつたのと、男性の桎梏より脫する爲めには自分達も確實に經濟的に獨立しなければならないといふ自覺から、近年大部分の女性は家庭以外の「社會」で働いてゐる。少くとも

働かうとするやうになつて來た。そして皆資本家の許で働いてゐるのである。彼の工場の女工を見よ！ 資本家は自家の都合次第で若い一個の肉體を勞働市場に商品として賣買し、工場にたゝき込み、あらゆる搾取をほしいまゝにしてゐる。

過去の女性の壓迫者はタイラントは一家の主人であつたどの階級を通じてもすべての男子は皆さうであつた。彼女等はこの苦しい壓制から脫すべく、そこに或る意義を見出して社會に出た。然しそこには一家の壓制者に代るべくより以上に惡虐な資本家が待ちかまへてゐたではないか。男子の人格的搾取に代ふるに資本家の肉體勞働搾取が口を開けて待つて居たのだ。女性はなぜ斯うも苦しまねばならぬのか？ 彼女等にはどこ迄も不幸、悲慘がつきまとふ。女性の受難はあまりに過酷だ。

過去の女性は自分達の不幸、悲慘の源泉が何にあつたかを知らないでゐた。社會の制度、機構とは如何なるものか何も知つては居なかつた。知るすべがなかつたのだ。社會的關心や社會意識など皆無だつた。それは彼女等の心理的習性が長い隱忍の歷史的事情に災されて自己の社會的地位や立場につきつめた關心を抱く事を許さなかつたからである。

然し彼女等は社會を發見した。彼女等は最早や男性の奴隷でもなく、人形でもなく、立派な意志を有する人間である事を自覺した。社會に於ける自分達の不幸や悲慘や痛苦が何によつて生ずるか、それを取除くには當然今の社會の制度や機構を問題としなければならない事を知つた。こゝに社會的關心や社會意識の出發點がある。

現代は階級對立の社會だ。即ちブルジョアとプロレタリアの對立に外ならない。人間の不幸や悲慘が階級間の經濟的搾取關係、政治的支配關係の結果である場合には、その社會內に生活するすべての人間は、この兩者の關係から遊離して生活する事は出來ないからこの關係に無關心では居られない筈だ。社會を發見しこの關係が人々の（今の場合は婦人を主とする）の意識に鮮明になつて來たとき、あらゆる人々に向つて社會的關心、社會意識の要求されるのは當然ではないか。

ユナイテッド、アーチスツ會社提供
メトロ、ゴールドウイン、メーヤー映畫
エドマンド、グールデイング氏作品

巴里（全六巻）

原作 監督　エドマンド、グールデイング氏

配役

女　ジョーン、クローフオード孃
男　ダグラス、ギルモーア氏
アメリカ人　チヤールス、レイ氏

（梗概）

或る時は絢爛目を奪ひ、或る時は豪華を一世に誇る花の都！ 路傍の佳人の一瞥に恍惚として我を忘るゝ春もあれば、暗夜に迷ふ悲歌落寞の秋もあらう。茫乎として捕捉し難きもの、これぞ憧れの樂園巴里の姿！

ジエリーはこの巴里に來たアメリカ人だつた。金のあるに任せて遊び暮らす中、そゞろ歩きには快い巴里のある夕まぐれ、身裝は卑しいが天成の麗質蔽へども隱せぬ美人に遭つた。女には情夫がある。貧しい、荒んだ日蔭の生活を送るアパッシユの群に、男は女をも引づつて來てゐた。豪奢なジエリーを見た女の目が異樣に輝くと、男は嫉妬に燃えてジエリーに迫る。二人は爭つて、終にジエリーは傷ついた。

女はジエリーを介抱する。ジエリーの心は天外に飛んだ。いつまでもいつまでも女と一



緒にゐたくなつた。女は、此の男を見るにつけ、日蔭の生活が厭ほしくなる。情夫に勸めて自首させて男の放免を待たうと決心した。

情夫は入獄すると、女はジエリーと共に暮らす身の上となつた。ジエリーの優しさは身に泌み〴〵と嬉しかつたが、さて忘れられぬは末の松山變らじと、契り契つた情夫の身の上、いよ〳〵女は身持ちを堅く固く過ごした。

樂しい月日は速かに去る。女はやがて情夫出獄の報に接した。今や、彼女は心を決してジエリーと別れ、再び陰鬱な昔仲間の世界に戻らねばならなくなつた。

女に去られてからのジエリーの心には、流石に强い未練が殘つた。その未練ゆえに逢ひたさ見たさの一途な心から、ジエリーは思慮も分別も打ち

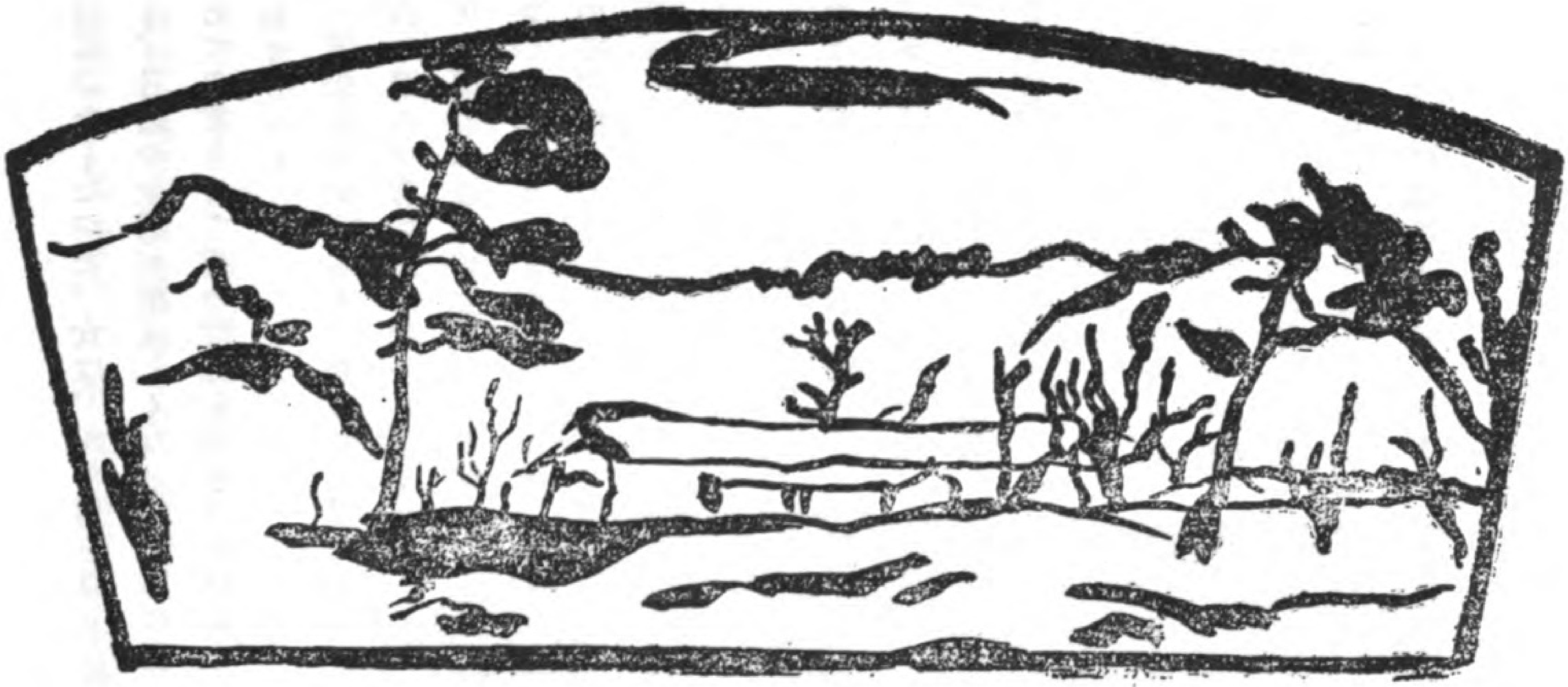


忘れ、女の宿を訪づれた。危險の多いその宿を。

女と、情夫とは仲よい物語の最中であつた。これを見たジエリーの胸には未練と嫉妬の情火が渦卷いた。情夫の方でも、不意の闖入者に平和の心を破られた。猛然と、二人は立ち上つて爭つた。

烈しい爭ひの末、情夫は傷き倒れた。ジエリーは勝利に誇る目を上げて、今ぞ女を連れ戻らうと促がす。が、女はジエリーを拒んで、泣き伏した。彼女に情夫は只一の男であつたから。

ジエリーにとつては、女と共にありし今迄の月日は夢であつたらうか。女の温かなりし心盡しは只一片の仇情であつたらうか。思へば何一つ心をうち、魂を搖がす物はなかつたではないか。茫乎として捕捉し難きもの、これぞ憧れの都巴里の姿であると、彼は漸く悟つたのである。



泣く女

榎本八十子

美鈴はとも角おすまのところへ行つて見やうと思つた。で思ひ切つてその近處の停留場で下降りて、東京の郊外にはもう珍らしくなつた水車小屋の脇の暗い竹山を拔けて大根の青い葉の連らなつた畑を長いこと歩るいた。「今日邊りあの人、家にゐるのやら」

何よりの懸念は、おすまに一刻も早く逢つて見度い美鈴に、彼女の在否の不安だつたが、畑が途切れて、又竹山に入つたところで、道が左右に別れて、やがておすまの家近くまで、美鈴は變に苦痛な足を急がせて來た。

來て見れば、何となし露骨な汚い草葺屋根の百姓家で、少し不對照な大きなぶらんこの目につく庭に入つてゆくと、一度逢つたことのある老母が、三つの女の子を背負つて鷄の世話をしてゐた。おすまは矢つ張り留守だつた。洋服を習ひに八丁許り先きの學校に出て行つてるとのことだつた。美鈴の氣持はぐら／＼した。まがよかつたら一晩厄介にならう。そういふ下心でしほ／＼とやつて來た自分を思ふと、おすまに逢ふことが、ちよつと氣恥しいなとも思はれたが、此儘、何處といふ當もなく今夜泊る

ところもなかつた。

美鈴は、思ひ返してぽつんと低い椽に腰を下ろして見た。畑の方から包みを抱へたおすまが歸つて來た。

しんめりとした泣顔を、そつと伏せたにも關はらず、おすまの鋭どい視線に打つかると、美鈴は堪らなくなつてすゝり上げた。

「お上りなさいましな、そんなところで」

おすまの心一杯傳はつて行つた美鈴のすべてを、顔に表はすまいとして、いかにも奉公歸りらしい大きな風呂敷包みにひよいとおすまの瞳が透れていつた。

「その御包みも中へ入れてお置きなさいましよ」

「でも、こんなもの」

「どんなものでもさ、今夜お泊りになつてもいゝのでせう」

「はあ、いゝえ、そんなこと」

「いゝのよ、解つてますから、御遠慮なさることないわ」

美鈴は、もじ〳〵した揚句に、荷物と一緒に座敷の中につんのめりさうな身を入れた。

「その包みの中には何がある」それさへすつかり見抜いてゐるやうなおすまの無言の眼色がたゞ恥しく、熱くなつた瞼を通して自分に迫まつて來るので、美鈴はもう何も云はずに、おすまの前に感傷的な涙をぽろ〳〵落した。

誇張的とも云つていゝやうな、その泣くだけを泣いてしまつたら、後でいろ〳〵話を聞きませう。そう云つた風に默つて坐つてゐるおすまが、容易に口を開いて呉れなければ呉れない程、その沈默が怖ろしく氣味惡るかつた。

おすまなどの足下にも及びつかないやうな素ばらしい呉服物問屋へ嫁に行つてから、十年もの間、音信もせずにゐて、二ケ月許り前にふとした事から、又元の昔の交りに返つた二人の仲だつたが、相變らず無愛想な無口のおすまの態度が、美鈴に變な間隔を思はせた。が、又、なつかしい思ひ出に返らせずにもゐなかつた。それにしても、夫の放蕩から行衛不明家產倒壞、身内の者の死などと、次々の不幸を背負ひ切れなくなつて、七つの男の子を連れて實家に戻つた美鈴の動きのとれない苦るしい境遇を知り抜いてゐるおすまには、そう輕る輕るしい口も利けない氣持もあるらしかつた。

「わたくしね、遂々、T様出てしまひましたのよ」

「おみさんにや無理ね」

「別に無理じやないんですけど、何しろ和男と同じ年の若様

の御相手に上つたのですけどお妾樣の御子とかで混み入つた關係になつてゐる上に、とても我儘な方でね、一日馳けつこさせられてゐたんですの、その上に、夜分はお傍へ寢るのにちよつとも氣を許して寢てはいけないつて、二晩許りわたくし大變叱られましたのよ、床に入ればすぐ一眠りに寢ちまうんでせう、晝間の疲れだけで、夜分絶へず眼を覺ましてゐなくちやいけない役目とても勤まりませんわ」

「わたくしね、あれ程無理して家を出て一ケ月そこ〳〵の御奉公が出來ないなんて、近處の人にだつて厭ですし、どうかして一人で奉公口見つけやうとして桂庵へゆきましたのよ、小石川の方のねえ、そこからの世話で、赤坂のKさんて實業家御存じでせう、あの御家へ行きましたら女中許り七人ゐてみな銘仙以上でなくちやいけない、そして朋輩同志のお交際から、御主人の子供さんの病氣見舞まで各々にするのだつてんでせう、わたくし一錢でも餘計和男に仕送りしなくちやと思ふふと、そこも矢つ張り駄目で、もう桂庵許りも四五軒歩るきましたのよ、」

「そんなに歩るいて、いゝとこつてないでせう、おみさん一生奉公しやうなんて氣だから餘計むづかしいわ」

「わたくし、おすまさんにいゝお考へあるかと思つて」

「わたしや、初めからおみさんの御奉公にや不贊成でしたよそれよか、も一奮發して何處までも和男さんと一緒の生活をすることに骨折らなくてはと思つてますがね。やたらに世間の體裁許り作つてゐないで、もつと素つ裸になつて貰ひ度い位ですよ、おみさんが再婚する意志もなく、將來は深井家に返してしまふ和男さんの爲にそんな苦勞をする位なら、何故あの當時のやうに呉服の行商を續けなかつたかと思ひますよ離婚して厭な思ひをして實家に戻つて來るより、そうして何處までも不幸ながら、正しい深井母子でやつて行つて貰ひ度かつたのだけども、義理とか名譽とか云はれる御家の方々にしたつて、そうして置いた上で蔭で護つて下さる分にや立派なものじやない？」

「わたくしもそりやあね、幾度も思ひ、賴みもしたんですけど、二人でそうやつてゐるうちに、若しもあの人が轉げこんで來た時や、食ふに食はれなくなつた時にどうする、みんなのいふ事さへ聞いてゐれば、そんな事は決して起らず無事にゐられるからつて云はれちまふと、わたくし手に何の職もないから困ると思つて。」

「じや、おみさん、旦那様にや絕對未練なしなの」

美鈴はぎくつとした。未練がないと云へば云へる、あると云へば云へもする、何つちにしても、お互に憎み合つて別れたのじやなし、人の口に騙されて、花柳界といふ花柳界のどん底にまで流れ歩るいて、借りられるだけの金を借り散らかして、今はこの世にゐるのやらさへ知れないと云はれてゐる夫であつても、胸に描く俤は、妙に痛くなつかしいものだつた。そうかと思ふとそよつとした風の便りにも、鋭どく迫まつて來る人の噂さでは、夫はたしかに東京にゐる――ことさへ美鈴も信じてゐたが、兩親や兄弟の手前、口にも出せない苦るしさだつた。たゞ〳〵皆の云ふ通りに子供をあづけて奉公でもしてゐるうちに再婚した方が安全には違ひない、がそれで、一生の心の重荷が綺麗さつぱりと身から拔けることもないのを思へば、焦つたり悲しんだり、自分程不幸な女はありはしないといふ愚痴も出て來るのだつた。あれも云ひ之も訴へ、細々と身の上を物語らうとするに、おすまは何となく固かつた。何でも易々と聞いて貰へさうだつたおすまの生活も美鈴とは全然變つた苦難な道を步んでゐるのに對して、美鈴の苦勞はまだ〳〵、みんなに甘へ切つてゐられる程度のものだつた。美鈴が流す淚は、おすまに安價な、苦々しい思ひまでさせずには置かない位のものだつたが、精神的にも、肉體的にも、二十八といふ美しい若さから來る惱みには、おすまも心から悲しんで呉れてるやうだつた。美鈴さへその氣になるなら、和服裁縫してゐる腕をも一步伸ばして、洋服裁縫の方に身を入れたらどうかと、おすまは熱心にすゝめた。その事に就いてなら、おすまが出來るだけ面倒見るから、そうして、少しづゝでも新らしい生活へと獨立して行つたらとも云つた。美鈴のやうにそう他人の意志通りに動いて許りゐて自己を押し立てゝゆく元氣すらないやうじや、一生泣いて暮さにやならないともおすまは强い口調で云つた。もつともな話には違ひがない、美鈴には、その當時戰慄させられた、因習的結婚から逃れ去つて勇敢に孤々の生活に入つたおすまの激しい氣持が、時々鋭どく反映するやうなまぶしさで、ぼんやりした心の中に突いて來るものがあつたが、美鈴には、どうもその事がはるか遠いことに思はれた。

「おみさんはたゞ、自分の不幸を悲んで許りゐられるけど何故自分がその不幸に陷つたか、どうしたら、そうしたものから浮び上ることが出來るかを、本當に心の底から考へた事お

りになる?」おすまは、美鈴の跪い頼りない心を引つたくり上げるやうな焦立たしい口吻で訊いた。美鈴には漠然とした質問のやうだつたが、何かしらはつと慌てさせた。おすまの云ふ通りに、自分といふものをはつきり掴み切れないうちに、はたからやい〳〵搔き立て搔き散らされて、結局みなのもの〻重荷になり、彼女の不幸になつてゐるだけのものだといふことが、朧に解りかけた。

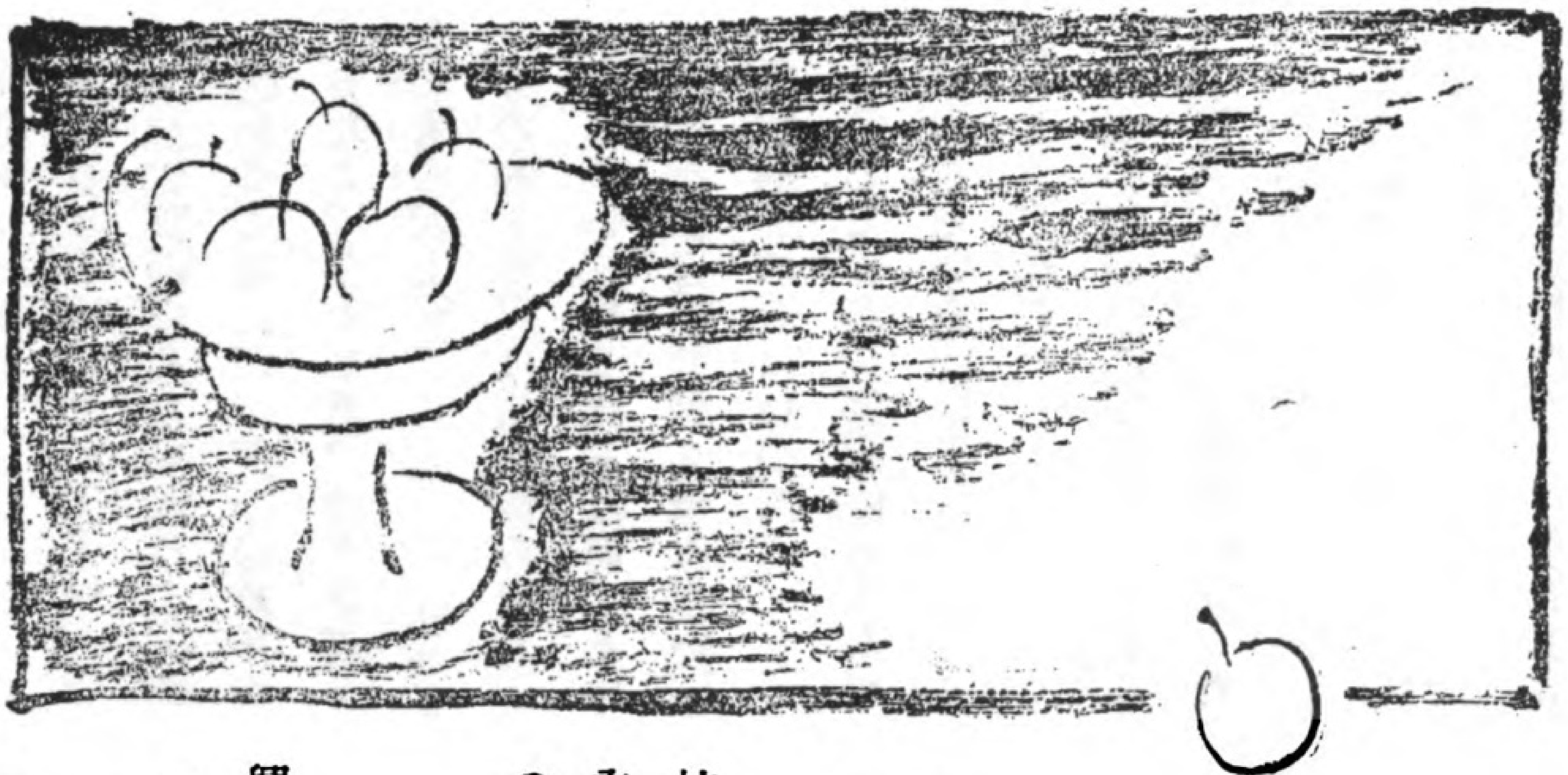
おすまが躍起になつて、内面的にそう肉親許りを頼らずに母子二人の生活に新らしい意味を持つのなら、奉公も一時の手段として結構だが、と云つたのに對して、美鈴は吻とした心の革命を許された氣がした。

綿々とした盡きない哀れな物語りを聞いて貰つて、一緒に泣いて貰ふには、おすまはいかにも無愛想で重苦るしかつたが、美鈴は言葉の半分をおろ〳〵とすゝり上げる泣き聲で紛らせた。不幸な結婚を通つて來た自分が、今は一種の誇らしさとでも云ひ度いやうな錯覺さへ起しながら、それに向けられる同情を期待しつゝめそ〳〵した。

美鈴と一緒に枕を並べて寢て、晝間からの昂奮で遂々おすまは一睡もしなかつたと云つた。その蒼い顔を見ると、美鈴はちよつと恥しかつた。おすまに逢つたらと、溜めて來た胸の思ひを一しきり吐き出して、その物語りに景物的の泣き疲れた身は、朝まで夢も見ずに眠り通したからだつた。そして「今日も一つ桂庵歩るきをして、入り込んで了ひ度いな」と思ひつゝ、出かゝつた欠伸を、おすまの手前そつと嚙み殺したのだつた。おすまの熱心に動かされないこともなかつたがそうするには、又別の苦るしみをしなければならないことがすぐに迫まつて來てゐるのだ、美鈴は、もう之以上の苦るしみをするのが物倦かつた。おすまの云ふやうな、希望に向ふ苦るしさなんか、墮力で押しつぶしてゐるうちに、どうやら生きるだけはして行けるだらふといふ氣持だつた。

「おみさんは、まだ〳〵幸福な方よ」おすまの最後の口は閉じられた。

美鈴は、慣らされた愼ましさで、そつとその口下を見やつた。「もうすぐ冬が來るな」そんなことをふいと思ひ出しながら。(昭和三・九、一)



チゥインガムのカス

並木琴

仕事が一段落つくと、彼らの手には申合したやうにバットの箱がにぎられた。

「人世眞なくて何の……だね」

「そうだね、全く……」

午後三時、日本造りの廣い仕事部屋である。赫々たる眞夏の日指——だが、そこには氷柱は勿論、煽風器もない。まして、晝間でも五〇、六〇、一〇〇の電光はいやが上にも室内をむし返して、机の下に巣くつた性の惡い蚊が時々ズボンをはづした彼らの毛ズネを襲つた。

そうした中にたつた一人机を並べて割り込んだ私——

私はその時ペンを投げすてると、椅子の背に頭をもたせて、事もなげな面持で煙の輪に興じ合ふ人達をぢつと眺め入るのだつた。

「いゝなあ」

私はいつた。

「君、チュウインガムはどう?」

向側のAが私に聲をかけた。
「チユウインガムだつて？」
「ウン、貞ののめない女はよくあれを使用するんだぜ」
「何いつてるんだ、貞ののめない女なんて、體のいゝ解釋をするなよ、ありや君、モダンボーイがキスの豫告に女に度すしろものだよ」
もの知りのBは横合からそふいつた。
「そふかい、なるほどなあ、そいつあ面白いよ」
「そんな事どこで覺えたんだい」
對角線上のCはいつた。
「どうしてつて、字引にあるんだよ、なあ君」
「私知らないわ」
「よし、それじや」
Aは、目の前に並んだ辭書をくり初めた。
「よせよ君、そんな學者の作つた本の中にあると思ふかい」
「じや何だ」
「近代社から出たじやないか」
「よし！」
どこ迄も眞劍なAは、卓上電話をとりあげた。
「モシ〳〵アノ近代社」
「辭書の註文かい？」
苦笑したBはいつた。
「そうだよ」
「仕末におへんなあ頭の惡い奴はハツハハ」
Bは一人、大聲で笑つた。
「なあんだ」
「近代社つてね、社でなしに者なんだぜ、つまり近代者さ」
Cと私とは只笑つた。
「いや、君の胸に於て出版されたんだね」
「でもないんだ、是非それ程見たければ多分共産黨本部に行つて見給へ」
「共産黨だつて？」
「アヽ、あすこへはね、ロシヤ革命當時にあつちへ行つてた奴が歸つてるんだよ、そいつが何しろ持ちこんだらしいね——だらうと思ふんだ」
「コンミユニストつて奴かい？」
「無論さ」
「すると、奴の手に保存されてるんだね」

「よせよ、其奴がだね、例のチューインガム宣傳の抑々の元祖だつてんだよハッハハ――」
「や、どうも……」
「いゝモダン語源じやないか、なあ」
休憩時の彼らは罪がない。
だが煙に圍まれた私は、いつものやうにそれを氣にする餘地もなかつた。
私は、一人胸の中で苦笑した。胸を刺す苦笑である。
――チューインガム――コンミユニスト――

×

脊の高い彼には、灰色のルパシカがよくうつた。殊に、エキゾテックな眼と鼻のあたり――
彼は、自分のことをコンミユニストだといつてゐた。勿論彼はまだ年が若かつたし、彼の本職は年中、野に山に海にキヤンバスをかつぎ廻ればよかつたのだから、コンミユニストの名はあつても、決してはつきりした意識があつたわけではなかつた。然し、社會は、彼の肩からキヤンバスを下さして科學の智識を注入することを強制した。單純な彼の思想は漸く不解明な化粧前の血液を象徴し初めた。そして言動の凡てはコンミユニステツクになりつゝあつた。
私達は、その夜も街燈のない郊外の狹い坂道を、腕を組み合つて歩いてゐた。
彼はいつものやうに、ポケットからチューインガムを出して、私に渡した。だが、その頃はもう初めのやうに、紙をとりのけて迄はくれなかつた。
私達の行く手は無限に遠く廣がつてるもののやうに思はれた。
「電車にのらない？」
暫く無言がつゞいてる時、突然彼は口をきつた。
「いやよ、電車なんてうるさいわ、疲れきる迄歩きませうよ第一電車代なんて勿體ないんだもの」
私は、例の調子で相對した。
「一體二人でこうして歩いてると、いつ疲れると思ふ？」
「そんな事は知らないわ、でも、どうしても歩けなくなつたら、道ばたの草の上に、あなたの膝を枕にねる迄よ」
「そして僕は？」
「勿論私の脊中を――ね」
私は、彼の手をゆすぶつていつた。

「だが、……」
「何なの？」
返事をするかわりに、ぢつと私を凝視めた彼は、落付かない表情ですぐ又横を向いて仕舞つた。
「僕はわからない、どうしてもわからない。歸りたくは絶對にないし、といつて歩きたくもない……」
彼は思ひあまつた樣に吐息した。
「だから電車へのつてどこへ行くの？」
「それもわからない、凡てを君にまかしきつてるのだから……」
「まあ……」
私は、彼の手の上に輕い音を送つて、その手を私の首にまいた。
「ねえ、君は僕を殺すつもり、それともたすけるつもり？」
「ね、返事をおし！」
腹立しく私の手を握りしめて追求した。
「あなた、今日どふかなさいまして？」
私は、心配氣に眉をひそめて、懸命に彼を見まもつてゐた
「勿論、命がけでたすけてよ、だつて、それはどふしてなの」
「僕にはそれも解らない、只、君がそれを解つてくれる迄、僕はたすかりつこないでせう」
「だつて……だつて！――」
「勇氣を出せといふのに」
彼は、愈々荒々しくいつた。
「どうすればいゝのかしら、ねえ、私どうすればいゝの」
「あゝ、僕、今にも心臟痲痺――」
「え！」
フラ〳〵と肩に倒れかゝつた彼の面に、草のつゆがパツと散つた。
「氣持が惡いの？」
私は、自分のもつたハンカチで彼の面をふいた。
「放つといて下さい、冷淡な女だね君は」
手をつける術もない私は、默然と草の上に倒れたまゝ動かない彼を見つめた。
「どうしてそふ今夜に限つて怒るのでせう」
「ね僕の氣持をわかつてくれないからさ」
「わかつてるじやないの、あなたは一人で焦々するんですもの」

「止せつてのに、そふいふ理窟が第一僕を苦しめる」
――四五分過ぎた。
私たちは、爭ひながらも、いつか二人の腕の中に戀の連絡をとつて歩いてゐた。
踵の高い私の靴が丸い石をふみはづした、トタンだつた。
私は二三歩辷るとそのまゝ倒れて仕舞つた。
「アツ、危い!」
彼は、急にいつものやさしさに返つて、私をたすけ起した。
「いゝのよ」
私はそういつて彼の手をはねのけるなり、ビツコをひきながら歩き出した。
「私には護衛者なんてないんですもの」
眼鏡の中の瞳が異樣な光りをもつて、私の上に迫つてるのを感じた。
「わからずや――何てことをいふんです」
「フン、私もわからないわ」
だが、二人の足は同時に止つた。
麥藁帽、ルパシカ、眼鏡、品のいゝ口元――
しかし、それらはアカシヤの葉のしげみに遮られた光りの中では見出す事は出來ない。
薄暗の中では只、かすかな本能のみが遠慮がちに活動した。
「わかつた?」
「知らない――」
「じやあ……」
彼は、せわしい鼓動を私の耳もとにおしつけて
「これでも? え? これでも?」
「――」
「駄目だ、君はちつとも僕の氣持をわからうとはしないのだからね」
吐き出すやうなその言を、私は冷靜にきいた。
私は、止り勝ちな彼の側にちつと身をよせて俯向いた彼を覗いていつた。
「それはどうして? ね、その言はむしろ私がいふべきじやなくて……」
私の言は低くかすかに彼の耳もとに響いた。
「どうして」
「だつて――」
「何がだつてだ」

少時して、返事のかわりに私は情ない語調でいつた。
「ね、あなたもやつぱり普通の男なの？」
彼の歩調はハタと止つた。
「なぜです。何故君は今頃そんな事をきくんです、僕は、初めからそのことは宣言した筈じやありませんか、僕は決してあなたが思ふやうに聖者ではないと――」
「えゝ、そふでしたわ」
私は自分の無智が急に恥かしくなつて赤くなりながら、上目づかひになつかしく彼を見た。
「可愛いゝ人！」
いきなり私の首を抱くと思ふ時、情熱的な彼の唇は私の額に、眼に、そして唇に數限りなくおしつけられるのだつた。
「お願ひです……」
「何？　何なの――？」
「お願ひ……」
「靜かになさい！　君は昂奮してるのだから」
やつと吾にかへつた私は、自分を抱きしめて立つた脊の高い彼を、限りもなくなつかしまないではゐられなかつた。
「ね勇氣とは結婚することなの？」

「ウン」
私を見つめた彼の眼は鈍くうなづいた。
「じや、あなたは結婚しようといふの」
「――」
「そして、私は――、お母さんになるのね、あなたはお父さんに――」
彼は、何とも答へなかつた。私は俯向けた面をあけて、氣まりわるさうに彼を見た。
「大丈夫――」
小羊を追ひつめた狼の確信的な物凄い微笑――私は二三歩退いて全身をふるわした。
「小供――小供なんて君養へると思ふの？　僕は近いうちに洋行しなきやならないのだし、君一人で小供を――何、大丈夫さね」
彼は、ふるへる私の肩をゆすつて、ポケツトに手を入れた
「御覧！　科學の賜――」
「えツ！」
私は眞蒼になつてふるへながら、はげしい憎惡にもゆる眼光を彼の上に投げつけた。

「莫迦!! コンミユニストがそれ位の道具を使はなくてどうするんだ、子供何ぞ、僕らに必要は毛頭ありやしない、だが本能は本能だからね」

彼は自棄自棄だつた。

「一人の子供を食ふか食はずに育てるより、僕らには大事な社會顚倒の任務がある筈じやないか、泣いたり笑つたりする戀何て、もう吾々に必要はない、あれが第一仕末の惡いブルヂョア思想つて奴の殘りものだ、僕らの間では凡て非實用的なるものを排斥して、最も實用に適するものにのみ價値を認めるといふのだ、僕らは戀に於て現實を要求する、そして、その瞬間のエクスタシーを享樂することは、明日の吾々の運動に對する精力をもり返す唯一の機關であり、營養素なのだそれを解しない女何て、チエツ！ 下らない、目の敵……」

私のまん丸い大きい眼は動かなかつた。

「といふと――?」

「何だ、卑怯もの、えらさうな事をかねて云つてるかと思へや、役にもたゝない阿呆奴、勝手にしやあがれ、君一人が女じやあるまいし、下らない、氣どりやの傲慢な女が僕は大嫌ひだ、コンミユニストの戀はもつと、凡ての異性に對して開放的で現實的なんだ、そうした僕らの世界では、一人の人間を獨占するなんて愚劣な野暮な慾望をもつ人間は一人もないんだ、徒らな君らの鼻つぱしの理論がなんだい！」

「凡ての異性に――?」

醜くひきつゝた彼の面を見返した私は、かなり昂奮に顫へてゐた。

「何をいつてるんだ、これでもまだえらがる奴があるか、いゝかげんにしろ、君らと論爭してる暇は僕にはないんだ、いまく〳〵しいや、君らの人形芝居を見て嬉しがる奴あ今に見ろ一たまりもなく叩きつぶして見せるぞ、覺えてゐろ！」

――數分前のやさしかつた戀人――そして、これが眞實の男の聲であるのか――?

私は、憤りにわき溢れる泪をはらはふともしないで齒をかみしめた。

「だけど――いゝわ」

然し、そうした只一つの誇りとして殘された喜びも、今の私にはどれ程の慰めでもなかつた。

「處女とは? 處女とは?!」

「ハツハハ――」

私は自分自身を大聲で嘲ふより他にない。
フラツ、フラツ、
二歩、三歩、
私は、最後の瞬間迄憎みつゞけた彼の荒々しい靴音を、無意識に追ひかけた。

×

「行きましよ、同志!!」
どこかで、美しい男の聲が私を呼んでゐるやうに思へた。
研究會のかへりだつた。
小わきに、洋書のテキストを抱えた彼は、正しい歩調をとつてスタ〳〵と私の方へ寄つてくるなり、
「疲れましたか、でも最後迄やりませうね」
「えゝ」
あの頃の私は何と柔順な娘だつたろう。無言のまゝ凝と頭とで返事をした私であつた。
「下車(おり)ませう、そして何かのみませうね」
「ミー、ネエ、ボーラス、トリンカーヨー」
私は、殆ど口の中でそふ答へた。彼は人の目も構はず私の切り髪を輕くなで、笑つてゐた。
「いたかつた? 御免なさいね、本當に大丈夫なの?」
「何でもありませんのよ、ほんの少し」
「じやいゝけれど」
彼は、私の危つかしい足どりを氣にしながらいつた。
月の美しい夜であつた。高い石橋の上には、二人の靴の音がリズム正しく深夜の夢を破つて響いてゐた。
「まあ、何て美しい理想をおもちなんでせう」
「美しいなんて――とんでもない、僕はね、只僕の環境がそういふ氣持をもつべく餘儀なくさせたといふ丈けのことですよ」
その夜の彼こそは、至るでどこかの國の貴公子そのまゝだつた。
私はその夜、ひどく美しい神秘的な夢を見た。
リラの花園――はるか彼方から歩み寄る彼の姿は、正面に見る事の出來ない程、物凄いまでに神々しい魅力をもつてゐた。
「どうしました?」
「いゝえ、私なんにもいひ度くないんです」
「何故です、何かあつたんですか」

私は俯向いて泪ぐんだ。

「僕に云へないこと——まさか、そんな事がありうる筈はない、ね、何でもおつしやい」

「——」

「じやね、氣持のいゝ日、そして面白い話丈けより他に話す事の出來ない樣な僕だつたら、そりや友として何の存在價値もありはしないでせう、でなしに、僕たちは暗い日は暗いなりに語れないものでせうか、そして又苦痛をそのまゝ僕の耳に——ね」

私は、輕くうなづいて寂しく微笑んだ。

「お莫迦さんつたら——そんな事にどうして暗い氣持何で起すんです、あなたはあんまりものを考へ過ぎるといふものですよ、南の國の人のやうに、明るくなくてはね」

「でもね、私は一月に四五度位こういふいやな暗い氣持に襲はれますの、そんな時は人に逢ふのがたまらなくいやですわ」

「どうしてだらうね、體が悪いの？」

「いゝや、別に——」

私は、そう答へながらも、最近の詩「憂鬱」の文句をくり返して見た。その中には、不健康が自分を憂鬱にするのだといふ樣な事もあつたが、然し、決してそればかりとは云へなかつた。私は常に、自分の力を見失つた時極度の厭世觀を起した。そしてどう考へ直して見ても、それ以上生きて行く道はどこにも見出せなかつた。

私は、常に命がけでやれる仕事を求めた。

然し、どこにも私の命を求めてくれる天地は見當らなかつた。そふして益々焦々した。

私は、一人の尊敬すべき女の運動家を見出した。私は一時はパンの問題を沒却して、その中に身を投げ樣としたが、私は、自分の中に何らの力のないのを知ると、やつぱり大きいメシワンから離れることの出來ない自分を情なくなるばかりだつた。

だが、私には誠がないのじやない、熱が足りないのじやない、私にはやつぱり力がないのだ。そして私は寂しかつた。

「あの人はたしかに尊敬すべき人ですわ」

「否、むしろ親以上に親しみのもてる女性ですね、尊敬とは少し意味がちがひませんか」

「でも、その親しみの中に、愛の念が缺けてゐたら駄目だと私は思ひますわ、戀愛にしろ、少しの尊敬をかんじないもの

は、永續性がないだらうと思ひますのよ、そういふ意味で、私はやつぱり、愛と、敬と、親しみとをもちますね」

「全くそうです、いゝ人です」

話の焦點が一つになると、私はいつも元氣を快復した。

「ね、そうしてあなたはその人以上になれますよ」

「どうして？　お止しなさいまし!!」

私は、側にかけた彼の右手を強く握りしめて自分の胸にあてた。

「何でもありやしない、何でもないのですよ」

長い彼の膝の上に上半身を投げかけてむづかる私の眼の上に、やさしくキスした彼はそんな風に慰めた。

「怖いのよ」

「何が？　え？　何が怖いの？」

「――」

「仕方のない子供だねえ」

胸の動揺をしづめて、靜かに彼を見様とした時だつた。私は、私の仰向きになつた唇の上に、熱いはげしい何ものかをかんじた。

そしてその瞬間、床をはなれた私の足が空間で踊つてるのに氣がついた。

「びつくりしたの？」

「えゝ、いゝえ」

「どつち？」

「覺えないの」

再び私を抱きしめた。彼の瞳が異様に輝いてゐた。

印象深いあの刹那の笑顏……

そうだ。

護衛者！　護衛者!!

私は、懸命に追ひかけた。

「莫迦ッ！」

急に身顫ひして足をとめた私――

瞬間、私は桃色のハンカチを叢に投げた。

「私を守るものが半人でもありはしなかつた筈じやないか」

枯渇した泪の源泉――

私はもう泣く必要は一切なかつた。センチメンタルな泪の壺を放り出した。

そしてコンミユニストの仲間入り……

こぼれさうな星の群だつた

コンミユニスト、私の將來を祝福する様に。

「おい、再校が出たぜ」

「よしやらう」

「今日も亦ゐのこりかい？」

灰皿の中で、吸ひのこりのバツトの煙がかすかに渦をまいてゐた。

「あゝ、疲れて仕舞つたわ」

「なに、手をやすめたから？」

「いゝや、チユーインガムのカスよ」　二八・九・一〇稿

編輯後記

事務所の疊のおもてがへが出來て、まぶしいやうに青く、きれいになつた。加藤和子さんが來て下さつてから、障子が張りかへられた。棚が出來た。疊が美しくなつた。

まるで見ちがへる樣に事務所は美しくなつたのである。加藤さんの希望をみんな實現して貰つたら、きつともつと〳〵綺麗に片づくのであらうが、とそんなことを思ひつゝ私には、人それ〳〵に依つて注意の向くところが、みんな非常に違ふことが面白く考へられる。鈴木千代子さんは事務所をもつた當座であつたから、必要にも迫られてゐたらうが道具を揃へる事を喜んだ。鍋や椀を買つたり傘を揃へたり、座蒲團を集めたり、おかげで職業婦人社の事務所には、どのお客樣にもほめられるほどに、常に事缺かない程度に物が揃つたのである。

T子さんやC子さんは、私が一枚も着物をもつてゐないことについて、自分の責任でゝもあるかのやうに、いつもそれを苦にして、いろ〳〵と心配してくれるのであるが、みな人々に依つてその注意の向ふ處が、ちがふまでゝあるのだから、私のためにさう心を使はないでほしいと思ふ。かういふ仕事を續けてゐると、何かと入用が多いものだから、そのために追はれてゐる内に、外へ心を向ける餘裕とては、なくなつてしまふのである。

×

「職業婦人の家」を作り上げてしまい度といふので、いよ〳〵募金の準備がすつかり出來上つた。これから當分、私たちはこの方に集中して努めたいと思つてゐる。

誰しもその必要を痛感してゐるのに、いつになつても、さういふ計畫を樹てゝ動き出して來ないものゝ一つとして、わが「職業婦人の家」の計畫があつた。私たちは自分の微力をよく知つてゐるし、非常に忙しいので新しい計畫を更にこの上にもつといふ事は、むしろ一つの冒險でもあることを考へてはゐるのだけれど――殊に、最もわれ〳〵には縁の少ないお金子を集めなくては出來ない仕事であるのだから、苦勞は一層ひどかろうと思ふ。

然し、とにかく、共鳴者も多いことだし、現在の職業婦人の大多數からも、異常な期待と感謝を以て迎へられたこの仕事を、ぜひ完成させるまで、奮鬪してゆきたいのであるどうぞ、在京の諸兄姉はいふに及ばす、全國的にみなさんのお加勢が願ひ度い。

委しい御報告は、追つて郵便にてお屆けすることになつてゐます。何分よろしくお願ひします。

×

消費組合協會として、あちこちで毛糸あみものゝ講習會を初めた。毛糸ものゝ注文も、うけて製作してゐますから、商品として無責任なものを作つて賣るのとは全くちがふ、協會のものを、一つでも多く買つてほしいと思ふ。いふまでもないことであるけれど、私たちは特に協會のものが安いとは云はない。原料代だけの安さで賣つてしまつても、中間の商人にぼられないといふ利得が、はつきり一般の人々にわかつて貰へるわけで、いゝ筈だけれど、然し、私たちは、ものを買ふといふ事に依つて協力一致の訓練を重ねたい。卽ち協會からものを買ふ事に依つて、協會に儲けさせる。協會の積立金を少しでも餘計にしたいのである。そして、そこに積み立てられた金子が、チリも積もれば山になつて多額になつ

たとき、私たちは婦人のために必要ないろいろな仕事を初める基金にして、有効に生かしたいのである。卽ち、婦人がものを買ふ生活を通して、共同の積立金を餘計にして行つてその金子で、共同に利用し合ふ樣な、又樂しみ合ふ樣なことを、つぎ〳〵にと實現してゆくのである。

全て、ものを買ふときに、主婦たちよ、成べく共同に買ひ、共同の利純をつみたてゝゆく樣に、つとめてほしいと思ふ。（奥）

×

お目出度い御大典の秋、天高く馬肥えて、いよ〳〵快よい時節となりました。職業婦人社の一同は、殘り少なくなつたこの年を、大事業である「家」の建設に全力を注ぐつもりで居ります。最近は寄るとさわるとその話ばかり、道を歩きながらでも氣に入つた手頃なビルデイングを見ると、「この位のがいゝのかしら」とか、又ピンポンも欲しい、闘球盤も、オルガンも、いゝレコードも、出來る丈け、娛樂設備をとゝのへませうなどゝ話し合つて居ます。

いづれ近く、具體的の計畫を申上げたいと存じますが、どうかみなさまも極力御援助下さい。

×

あちらでもこちらでも、松茸の香がたゞよひ、リンゴの、あのつやゝかな頰に混つて、青いみかんが顏を見せはじめました。今日此頃の樂しみは何と云つても、くだものゝ味ひです。大好きな柿は今年は凶作で例年より高いと云ひますが、でもあのゴマをふいた快よい甘味は、私にとつて恐ろしい誘惑者なんです。

おかけですつかり胃散と仲よしになつて、みかんのやうに青い顏をして、奥さんから、いうらなりなどゝからかはれ乍ら、ぢつとがまんして居なければならないみぢめさです。

×

「青森から送つて頂いたのですから……」と奥さんから事務所にも、どつさりリンゴをお裾分けして下さいました。

「リンゴを食べると美人になる」といふ御託宣なので、さあみんな食べること〳〵物すごいばかり、たちまち殘骸の山をきづいてしまひましたが、さてどの位美人になつたか？どうかおついでの折には見物にいらつしやいませ。（文子）

◇誌代はすべて前納にして下さい

前納誌代

壹部	貳拾五錢（郵稅一錢）
半年分	壹圓四十錢
壹年分	貳圓八十錢

送金法

送金は振替が一番便利です。
誌代の受取證は別に出しません。
雜誌發送を以てこれに代へます。

昭和三年十月卅日納本
昭和三年十一月一日發行

東京市牛込區市ケ谷本村町四
發行編輯兼印刷者 村山文子
東京市神田區淡路町二ノ三
印刷所 協書社
東京市牛込區市ケ谷本村町四
發行所 職業婦人社
振替東京六四一六〇番

中西伊之助著（最新刊）

創作 熱風

暴動か非協同運動か虐げられた印度民族の叫びを聴け

マハトマガンディイ！ 彼は**レニン**よりも深刻、**ムッソリニ**よりも崇高である！ 彼は全三億の同胞のため、暴虐イギリス帝國に叛逆して遂にその一命を犧牲にした。今や彼の炬火の如き魂は全印度に漲り、晝は雲の峰となり夜は火の柱となる。彼の若き一使徒は巨万の財を捨て孔雀の如き戀人を捨てて街に田園に非協同運動のために戰ひ、遂に暴虐なるイギリス官憲の銃劍の下に殪る。吁、**ガンディズム**は遂に全印度民族を救ふに足らざるか？ 綺羅と寶石を擲つて戰ふ乙女、長槍を執つて起つ農夫、野に森に砲火轟き、絞首臺に流血迸る。しかもその半面、千尺の地下室に於て情痴に狂ふ野獸の如き人々の群、凄慘にして雄大、深刻にして神嚴、實に本書に依つて作者の烈々たる民族解放の胸焔に讀者は頰を灼かれむ。綠蔭の下に本書をひもとけば、熱風薫る新しき印度は彷彿として眼前に迫らむ。

四六判八〇二頁
定價二圓三〇錢
送料（書留）二七錢

東京麹町下六番町
平凡社
振替東京二九六三九

「世界美術の見方と味ひ方」の良參考書

野口米次郎著　日本美術讀本

石井柏亭著　西洋美術讀本

菊判約三百頁　原色版網版挿畫多數　定價各一圓五十錢　送料二十錢

東洋の美術に含まれる深奧なる精神、西洋の美術に現はれる複雜なる傳統、それの眞髓に觸れるには、一體美術を何ういふ風に觀、何ういふ風に感じ、何ういふ風に味はふべきであるか、この常識を備へてゐなければ、美術に對するほんとうの感興は生れて來ない。此に著はされた二つの讀本は、各著者が世界美術理解と鑑賞の爲めに特に意を用ゐて美術の常識の一通りを一册のうちに書き收めたものである。故に尤も親切なる美術鑑賞入門の手引書であると謂へる。

東京麴町區下六番町
振替東京二九六三九番
平凡社

（內容一般）

○日本美術の精神（第一論）
○日本美術の精神（第二論）
○日本美術の精神（第三論）
○浮世繪の美
○屏風藝術
○花鳥畫家の世界
○舌足らずの藝術美
○藝術の單調美
○日本最大理想的藝術家
○乾山
○挿畫の解說

（內容一般）

○序說（西洋美術を觀る人々へ）
○西洋美術略史
○西洋建築の話
○西洋彫刻の話
○西洋繪畫の話
○西洋工藝の話
○西洋美術に取扱はれたる主題

大正十三年十一月二十二日 第三種郵便物認可
昭和三年十月三十日 印刷納本
昭和三年十一月一日發行（毎月一回一日發行）

婦人運動

第六卷第十號
（定價二十五錢）

復刻版 婦人運動 第二回配本
（第6巻～第10巻）

1990年9月25日 発行

本体揃価格 50,000円

発行者 船橋 治
発行所 不二出版㈱
東京都文京区向丘1-2-12
〒113 ☎03(812)4433
印刷所 三進社
製本所 吉田製本工房

中性紙使用
乱丁・落丁はお取り替えいたします